

郵便史研究

第 58 号

郵便史研究会紀要

口絵カラー

郵政博物館収蔵 昭和 50 年 記念特殊切手原画から (巻頭) (1)

<論文・研究ノート>

江戸時代の算法書に見る九六勘定一竜切手「銭四十八文」再考補説—
一定飛脚問屋における災害情報の発信・収集—安政東南海地震を事例に—
箱館における前島密ゆかりの人々 前島密とゆかりの人々 3

藤本 栄助 (3)

岡崎 佑也 (32)

井上 卓朗 (48)

恤兵絵葉書の系譜

鈴木 孝雄 (55)

「軍事郵便」ニ非ズ

赤須 秋王 (69)

南方占領地マライの郵便

上遠野義久 (76)

吉田鉄郎と山田家住宅“洋館”の 100 年—価値・認知度向上・維持活用—

山田 正彦 (90)

<近刊紹介> (120)

<資料紹介>

郵政博物館収蔵 国定公園切手の原画・試作図案について

星名 定雄 (124)

物流博物館所蔵の宇布見郵便局郵便函

井上 卓朗 (142)

大野延太郎撰「石器時代紋様繪端書」

平田 健 (147)

旧刊紹介 (32) 横山 要 著『樋畑雪湖年譜』

鈴木 克彦 (155)

2025.10
郵便史研究会

吉田鉄郎と山田家住宅“洋館”の 100 年

—価値・認知度向上・維持活用—

山 田 正 彦

1. 序

逓信省（郵便・通信等を管轄した戦前の官庁）の吉田鉄郎は郵便局舎を多く設計しモダニズム建築を先導した¹。本稿は、彼が省外で手掛け昭和4（1929）年に富山県南砺市福野に竣工した建築、文化財山田家住宅洋館（洋館）を取り上げる。彼の故郷福野・生家五島家（郵便局長*）・山田家と五島家の縁・洋館の価値と東京中央郵便局との類似・吉田の認知度向上の歴史・洋館維持を包括的に論じる。関連した建築にも触れる。

1-1. 「吉田鉄郎の近代」展覧会〔令和元（2019）年11月1日～翌2月11日〕

令和元（2019）年、日本近代建築の巨匠吉田鉄郎*の生誕125周年を期し、「吉田鉄郎の近代 モダニズムと伝統の架け橋」展²が国立近現代建築資料館で始まった（3-3.）。その『図版』全4章のうち1章を住宅に費やし、住宅の吉田を大きく取り上げた（吉田建築のうち逓信省の建築は約70件、住宅など省外の建築は約50件）。竣工90年、吉田設計の山田家住宅洋館（洋館）にも光が当たった。



写真1 旧東京中央郵便局（現JPタワーKITTE東京）と東京駅

*吉田鉄郎（明治27（1894）年5月18日～昭和31（1956）年9月8日）は逓信省経理局営繕課員として、旧東京中央郵便局（昭和6（1931）年竣工、3-2-1.）や旧大阪中央郵便局（同14（1939）年竣工、3-9.）を設計し、戦前の日本の近代建築の発展に大きく寄与した。これら郵便局は駅前や町の中心地にあり、人々に親しまれた。国立近現代建築資料館が系統だって資料を収集する建築家の一人。

¹ 『建築文化』1990年 Vol.45 No. 521「吉田鉄郎 近代日本、建築家の足跡」向井覚 彰国社；
『建築 97号』1968年10月 吉田鉄郎特集 中外出版(株)

² 『吉田鉄郎の近代 モダニズムと伝統の架け橋』展 2019年11月1日 文化庁 国立近現代建築資料館；
吉田の初の建築、福野の授眼蔵図書館（2-4-1.）竣工から100周年に当たる。矢作英雄の持つ吉田資料の整理（3-2-1.）も受けた。

※本稿で取り上げた以下の郵便局はすべて富山県の特定（三等）郵便局である：福野・石動・津沢・戸出・福光・城端・富山柳町・東岩瀬。

様式のある程度共通する吉田の本業、通信建築とは異なり、吉田の住宅はバラエティに富む（「吉田鉄郎の近代」『図版』）。このように多様な建築を試みた建築家は稀で、住宅は吉田の特徴をなす。吉田住宅の一つ一つ、住宅の個性やその背景に興味が持たれる。

吉田の住宅“洋館”の 100 年、特に最近 5 年間の「人」「家」に焦点を置いた本格調査、認知度向上活動、維持活用検討から、吉田が洋館に込めた意図とその後の洋館を伝えられれば幸いである。吉田に対する記述は多いが、吉田建築の現在までの歴史は本稿が恐らく初めてであろう。

1-2. 洋館と付随する建築 [昭和 2 (1927) 年、同 4 年、同 13 年、同 39 年]

南砺市福野（富山県西部）山田家の敷地 500 坪には、吉田が昭和 2 年に設計し同 4 年 6 月³竣工の山田家住宅洋館（洋館、建築面積 123 m²、延 170 m²、福野最大の現存吉田建築、木工芸家安川慶一が同 13 年・同 39 年一部改修⁴）は建つ。洋館は清酒「詩百篇」の酒造部や座敷など山田家建築複合体の真ん中に最後に加わった。山田家住宅蔵・山田家住宅倉庫（旧詩百篇酒造塙倉）・詩百篇の看板の掛かった山田家住宅門及び塙も現在残る。洋館・土蔵一体は吉田の洋館建築コンセプト（2-3-3.）であり、これらは竣工当時の位置にある。

土蔵は文化 14 (1819) 年の建築（棟札）、塙倉は簡易化小屋組（こやぐみ、屋根の部分）の珍しい形式と舟板を持つ。



写真 2 山田家住宅“洋館”の前面

1-3. 洋館の課題 [～令和元 (2019) 年]

上記展覧会（1-1.）の直前。洋館の維持を決めていた（3-1-2.）山田家がまとめた洋館の課題は以下 3 点:

① 洋館の価値 「どのように変遷し改修したか判らず、価値判断ができない」

洋館は専門家にも理解し難い部分がある。詳細に調査し判り易く説明したい。調査は価値を上げる。

② 吉田・洋館の認知度の向上 「洋館を残すには、地元で親しまれる必要がある」

認知度は大きな課題と捉えていた。普通、個人の私的空間は他人に公開しない。山田家のかつてなく熱心な認知度向上活動を概観する。

③ 洋館の維持活用 「一体で残し、活用を考える」

洋館は残したい。ただ関西の山田家は永遠に維持しない。寄付・譲渡は基本となる。木造の洋館の取壊は易しいが、山田建屋中の土蔵・倉庫の解体は負担が大きい。全体の運用を望む。

5 年間集中し、3 課題を並行して取り組んだ。調査により認知度は向上し、ツアーや招待で数百人が洋館を訪れ、建築・美術・郷土史など多彩な専門家から多数の指摘・疑問を受けた。調査は広がり洋館は豊かな知見を抱く。一方活用は進まないが、調査・認知度向上から吉田建築 7 番目の文化財入りを果たした。

上記 3 課題を混然と述べると混乱を招こう。本稿では 2～4 章に振り分け記述する。

³ 『吉田鉄郎建築作品集』1968 年 5 月 10 日 吉田鉄郎建築作品集刊行会 東海大学出版会（p142 に山田家住宅洋館を言及）

⁴ 安川慶一は富山県民芸の指導者。外村吉之介（倉敷民藝館初代館長）は洋館を、安川の代表作に挙げた。本改修を通し富山県有数の巨大な民藝空間が洋館に加わった。別稿『富山市民芸館開館 60 周年記念特別展 富山と民芸運動』図録「安川民藝建築の源流 福野山田家との縁」2025 年 7 月で述べる。

2. 洋館の価値: 南砺市福野にある吉田の建築群

2-1. 福野の吉田鉄郎⁵ [～大正 8 (1919) 年]

吉田の生家、五島家は江戸時代薬種商を営み、明治初期まで寺子屋を開き地元の子弟を教育した。五島家は芸術家で、吉田の祖父五島四代寛平と叔父政之丞は絵で知られた。吉田の父五島五代寛平は安政 2 (1855) 年生まれ (～明治 37 (1904) 年)、明治 24 (1891) 年に福野郵便局長に就任。母⁶ (慶応 3 (1867) 年～昭和 26 (1951) 年) は、石動 (富山県小矢部市) 郵便局長を明治 32 (1899) 年から輩出した小沢家⁶出身。吉田は郵政と縁は深い。

吉田の長兄六代寛平は明治 18 (1885) 年生まれ、同 38 (1905) 年 1 月 25 日福野郵便局長を継いだ。吉田の次兄健三は同 19 (1886) 年生まれ、地元の県立農学校 (現南砺福野高等学校) に学んだ後、東京美術学校に進む。卒業の年文展入選した洋画家である⁷。吉田は絵画と郵政に親しみ育った。

2-2. 福野に遺る吉田の作品群 [大正 8 (1919) 年～昭和 10 (1935) 年]

表 1 南砺市福野の吉田作品リスト

(大正 2 (1913) 年)			福野農学校鳥瞰図 (現存)
大正 8 (1919) 年	9 月	開会式	西方寺授眼蔵図書館 (現存)
大正 12 (1923) 年	11 月	改築落成*	五島家離れ (曳家保存) * 福野郵便局 『福野の史料』 (1978)
昭和 4 (1929) 年	6 月		山田家住宅洋館 (洋館、現存)
昭和 10 (1935) 年	9 月	開会式	福野農学校農業博物館・報徳会館 (非現存)
(昭和 14 (1939) 年)			五島家墓所 (西方寺、現存)

吉田は、5 件もの建築を福野に遺した。大正 8 (1919) 年、同 12 (1923) 年、昭和 4 (1929) 年、同 10 (1935) 年と戦前の活動時期をほぼ網羅する。何れも通信省外の建築である。西方寺授眼蔵図書館・農学校関係の 2 建築は公共建築で、五島家離れや洋館は住宅 (私的建築) である。福野で、吉田の公共・住宅建築を両方鑑賞しうる。採光を考慮した大きな窓と、制限のある土地への建築は全 5 件に共通で、旧東京中央郵便局と通じる。

吉田建築は福野に集積した。福野は江戸期 20 万石を数える豊かな砺波郡の中心にあり、五島家・山田家などの有力者は文化度が高く寄付も好んだ⁸。中でも山田八代正年 (明治 12 (1879) 年～昭和 36 (1961) 年) は福野吉田建築への関与を数件認める。正年は福野における吉田建築群のハブである (3-3.)。

⁵ 『建築家吉田鉄郎とその周辺』1981 年 5 月向井覚 相模書房 (p20 に山田家住宅洋館を言及); 『建材試験情報』「世界の伝統的建築構法 第 6 回 清らかなモダニズム建築 吉田鉄郎が目指したもの」2016 年 9 月号 南一誠 建材試験センター (p22 に山田家住宅洋館を言及); 『郵趣 8 月号』「郵趣風土記 ～マテリアルでたどる地域郵便史～ vol.23 吉田鉄郎の実家 福野郵便局」2024 年 板橋祐己 日本郵趣協会

⁶ 1899 年、⁶ 父 小沢喜知造が小沢家最初の石動郵便局長に就任。以下栄一・栄造と続いた: 『富山県通信沿革史』1942 年 8 月 富山県西特定郵便局長会編 編集委員長中島正文 (津沢郵便局長、俳号杏子)、編集顧問は五島寛平 (福野郵便局長)、中越印刷(株)

⁷ 『縁 五島健三の青春』2009 年 3 月 広瀬龍夫/大村歌子 いそべ桜蔭書屋

⁸ 『福野町史』1964 年 8 月 福野町史編纂委員会編 福野町役場;

『越中福野の詩百篇一発酵と歩んだ山田三代一』2022 年 6 月 山田正彦;

『近代史研究 第 48 号』「財産税と戦後福野の街並み一失われつつある物語」2025 年 3 月 山田正彦 富山近代史研究会

2-3. 山田家住宅洋館（洋館、現存）[昭和4（1929）年6月～]

2-3-1. 吉田の代表作

吉田鉄郎 35 才の建築、洋館は吉田の代表作群に肩を並べつつある。「吉田鉄郎の近代」展『図版』の吉田鉄郎年譜中、【現存】は老朽化した検見川無線送信所（唯一の通信建築 [千葉県]⁹・旧馬場氏烏山別邸（3-9. [東京都世田谷区]）・授眼蔵図書館（2-4-1.）・洋館（吉田は山田家洋館増築と、仮に呼んだ）・別府市公会堂（3-2-1. [大分県]）の 5 件。加えて洋館は南砺市が市指定の価値を認める¹⁰文化財であり（洋館より上位の文化財は重要文化財 旧馬場家牛込邸（4-2-1.）と市指定文化財 別府市公会堂の 2 件、洋館と同格の国登録有形文化財 3 件はいずれも通信建築、旧山田郵便局電話分室 [三重県]・旧京都中央電話局上分局・旧別府郵便電話局電話分室 [大分県]）、徹底した調査も挙げられる¹¹。

表 2 現存する吉田鉄郎建造物（構造計画研究所 吉岡康浩氏まとめに、文化財状況を加筆）

・岩手県 金ヶ崎電話中継局（1937） ・千葉県 ○検見川無線送信所（1926）[d] ・東京都 旧馬場家牛込邸（1928）[重]；東京中央郵便局（1931）[d]；○旧馬場氏烏山別邸（1937）[東京] [d] ・富山県 ○授眼蔵図書館（1919）；藤井能三銅像台座（1922）；五島家離れ（1923）； ○山田家住宅洋館（洋館，1929）[国]；五島家墓所（1939） ・長野県 茅野電話中継所（1938） ・静岡県 日向氏熱海別邸（1936，共作）[重] [d]；馬場氏熱海別邸（1940，部材保存） ・三重県 旧山田郵便局電話事務室（1923）[国] ・京都府 旧京都中央電話局上分局（1924）[国] [京都]；旧京都中央電話局（1926）[京都] ・大阪府 大阪中央郵便局（1939，部分保存）[d] ・大分県 ○別府市公会堂（1928）[市] [d]；旧別府郵便電話局電話分室（1928）[国]
○：「吉田鉄郎の近代 モダニズムと伝統の架け橋」展『図版』年表で 現存とされた建築。 [重]：重要文化財（国指定）；[市]：市指定文化財；[国]：国登録有形文化財； [京都]：京都市登録有形文化財（指定と登録は、4-1.，4-3-1.参照）。[東京]：東京都歴史的建造物；[d]：docomomo*登録 * docomomo（ドコモモ）は、モダン・ムーブメントにかかわる建物と環境形成の記録調査および保存のための国際組織。

住宅は吉田のライフワークである。吉田の卒業論文（大正 8（1919）年）は「我国将来の住宅」（「吉田鉄郎の近代」『図版』）であり、有名な独語 3 著作は昭和 10（1935）年の『日本の住宅』¹²で始まる。最晩年、昭和 32（1957）年『スウェーデンの建築家』¹³でも吉田は日本住宅の優秀さを述べた。常に吉田の頭には住宅があった。吉田の記録・物語が多く残る洋館が吉田にとり特別である理由に外ならない。

⁹ “旧検見川無線送信所文化財調査業務委託” 2014 年

<https://www.city.chiba.jp/kyoiku/shogaigakushu/bunkazai/documents/kemigawasoushinjyo-bunkazaichosa.pdf>

¹⁰ 『北日本新聞』「市文化財指定に 民間による活用探る」2021 年 12 月 10 日

¹¹ 『日本建築学会大会(近畿)学術講演会』「山田家洋館増築案について：吉田鉄郎の原図の分析」2014 年 山崎徹 川向正人；『醸界春秋 1 月号』「醸造家と建築 163 富山県福野・詩百篇酒造の酒蔵と洋館—吉田鉄郎設計の山田家洋風住宅を中心に」2020 年 川島智生 醸界通信社

¹² 『日本の住宅』1935 年 吉田鉄郎 ベルリン ワスムート社

¹³ 『スウェーデンの建築家』1957 年 吉田鉄郎 彰国社；吉田は「学校を出てから、次ぎから次ぎと（建築の）心の旅を続けた」と綴った。

住宅の価値は物語が解く。吉田の公共建築はどこか似通う。what (材質)・when (時代)・where (立地)は異なっても who (対象)は不特定多数である。片や吉田住宅は多彩である(1-1.)。持主(who)ひいては家それぞれに応じ設計した、と見る。特に吉田のような機能・目的重視の建築家にとり who は欠かせない。

洋館では山田家と吉田の密な協議が伺われる。残る家具・調度品や古写真百枚によっても who の物語がある(2-3-3.)。洋館は吉田研究のエンジンになった。

2-3-2. 福野山田家¹⁴ [江戸時代～昭和 38 (1963) 年]

正年を生んだ山田家は加賀百万石の米蔵・砺波郡中央の福野と代々共にあり福野に尽くした。慶安 3 (1650) 年の町立直後、初代は福野に移り住む。山田家は商工業を営み、名産棧留縞にも資本調達で貢献。肝煎・算用間・組合頭など町役人を務めた。二万石用水を管轄し新田開発、近隣の村々の地主を兼ね、藩から山廻役・新田才許を拝命。六代正稲は慶応 4 (1868) 年、平十村(大庄屋)となり名字帯刀を許された。明治以降は衆議院議員・福野町長(山田七・八・九代)を務め、実業家としても中越鉄道(現 JR 城端線)・加越鉄道設置に尽力、富山紡績・馬場汽船の役員も歴任。清酒詩百篇を明治 25 (1892) 年～昭和 38 (1963) 年、製造販売した。酒造部を併設し、敷地は 2 千坪あった。



写真3 詩百篇グッズ

「詩百篇」は福野の象徴的な光景である。福野の家々に詩百篇グッズが今でも多く残る。福野十二景¹⁵も詩百篇を挙げた(真言宗安居寺・曹洞宗恩光寺・福野神明社・開祖三右エ門・夜高行燈祭(夜高祭)・歳晚大市・福野機織業・銘酒詩百篇・石武雄神社・県立農学校(2-4-3.)・授眼蔵図書館(2-4-1.)・川崎永久橋)。

2-3-3. 山田家住宅洋館(洋館)の概要(3-4.; 3-7.; 注 11)

・山田家と五島家の縁-1(洋館竣工昭和 4 (1929) 年以前、[縁-2 は、3-1-2.参照])

山田家と吉田鉄郎の実家五島家は南砺市福野の有力者同志・親戚で、協力し福野の歴史・文化を担った。

安政元(1850)年頃、山田家と縁が深かった福富家からきよが五島四代寛平に嫁ぐ。元治元(1864)年寺田砺山の句碑(福野西方寺)建設の無尽講には、山田家数人・四代寛平・福富家が名を連ねた(注 8)。明治 6 (1873) 年に山田一族の七彦が福野戸長となった際には四代寛平が副戸長を務め、同 9~10 (1876~77) 年に消防関係の請願を連名で提出した。二人は絵が共通の趣味で、同 21 (1888) 年、家宝となる書を両名とも佐田白茅(外交官・文筆家)から贈られた(五島五代寛平の雅号「桜蔭」は白茅の書で有名)。

明治 37 (1904) 年、五島五代の従弟でかつ山田正年の義兄、福富平一郎が福野郵便局心得(補佐、五島五代寛平・六代寛平間の局長継承時期)となった。また、同 41 (1908) 年、五島政之丞と正年は盛岡の画家藤島静村(建築史家藤島玄治郎の御尊父)を福野に招いた。翌年五島六代寛平が尽力した福野郵便局の電話局開設にも正年は協力(「詩百篇」は最初の加入者)。六代寛平と洋館の主正年は骨董が共通の趣味で頻繁に往来した。正年の次女と、六代寛平・吉田鉄郎の妹(広瀬)はるは小学校から高岡高女まで同級。吉田の養子先・西砺波郡戸出町の吉田仁平家とも山田家は親戚¹⁶になる。山田家と吉田鉄郎の絆は強い。

¹⁴ 注 8; 『越中百家 上巻』1973 年 4 月 富山新聞社

¹⁵ 『福野の史料 15 巻 落ち穂』1978 年 齊藤五郎平、吉波愷堂(大正末期の砺波中学校長)による。

¹⁶ 『評伝 石崎光瑤: 至高の花鳥画をもとめて』2024 年 7 月 渡邊一美 桂書房; 鉄郎芳枝の仲人、吉田仙造(注 5)は戸出郵便局長。

正年は建築家吉田を認め、大正 14 (1925) 年頃両砺銀行金沢支店の設計を頭取として依頼（未着工）。正年は義妹馬場はる（1886~1971）に吉田を紹介し¹⁷、旧馬場家牛込邸（昭和 3 年竣工、4-2-1.）に繋げた。



写真 3 竣工写真集 4 枚目
酒造蔵から洋館を見降ろす

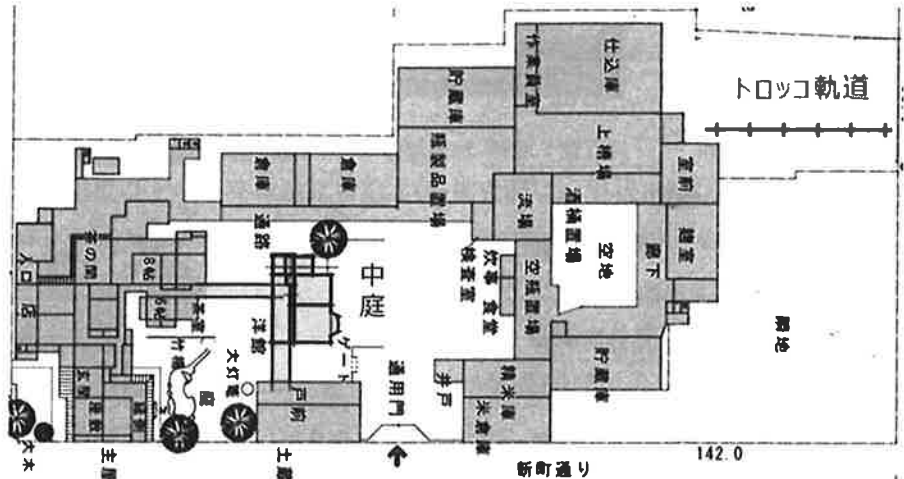


図 1 昭和 4 (1929) 年竣工時の洋館と周りの山田家建築複合体模式

・洋館建築の流れ

洋館設計の昭和 2 (1927) 年は東京中央郵便局の設計完了(昭和 3 (1928) 年 3 月。『鉄骨鉄筋 建築構造図集』(1933 年) 建築学会) の前年。吉田の脂は乗りきっていた。

山田家の事情と吉田の原図 7 枚から洋館の設計過程を悟る。酒造業監督のため、山田正年は建屋の中央中庭に面した離れを要し、吉田と相談した。大正 15 (1926) 年、正年の嗣子正廣が結核を発症し、建設の主目的が芸術家正廣の療養・隔離・創作・絵画展示・移動に変わった。結果、特色の乏しい初期の原図に機能明確な部屋「画室」が加わった。フローリング主体の床も消毒のためである。

設計を見直しても洋館の床面積は変わらない。並行し吉田が設計した旧馬場家牛込邸（4-2-1.）と異なる。牛込邸は更地に建ち自由度は高く、床面積は設計ごとに拡張した（馬場家の意向を汲み）。一方洋館は周りの山田建築群により広げる余地はなかった。同様の理由で五角形の土地に制限された東京中央郵便局を思い起こす。敷地から柱と梁で構成するのが吉田の一貫した建築思想であった（注 1、注 11）。

酒造建築群の中、奥まった中庭に資材搬入し建築するのは難しい。洋館竣工は原図作成から 2 年かかった。数 10 m 酒造敷地内を走るトロッキにより部材を輸送し、なんとか解決したようだ（図 1）。

・『山田家住宅洋館（洋館）竣工写真集』（1929 年 6 月上旬）の構成（下線は現存調度品類）

吉田の遺した竣工写真集は朽木邸・北陸銀行新潟支店等と少ない¹⁸。竣工写真集のある洋館は貴重である。また自身の認めた写真を残す吉田の方針から、吉田は詩百篇を尊重したと見る。18 枚の竣工写真は、書家永坂石埭（たい）揮毫の、大正からの「詩百篇」看板から始まり（写真 5）、酒造部作業場で詩百篇の前掛けをした作業員達の写真 3 枚（16~18 枚目、写真 17）で終わる。吉田建築洋館の写真を詩百篇が包む。東西 100 m に渡る山田家の酒造建築群の中への洋館建築を語る。実際、1 枚目奥に補助の酒蔵を垣間見る。庭や座敷、土蔵も他の竣工写真に見て取れる。よく引用される洋館の前面写真（4 枚目、写真 4）は北東上方からの撮影。

¹⁷ 『馬場はるとその周辺』2020 年 3 月 10 日 大村歌子

¹⁸ 『日本建築学会技術報告集第 26 巻第 62 号』「吉田鐵郎設計による北陸銀行新潟支店の設計プロセスに関する考察」2020 年 高木愛子 大川三雄 田所辰之助；『新日本住宅図集』1931 年 志摩徹郎（吉田鉄郎） 洪洋社；馬場家牛込邸（4-2-1.）；注 1 に、烏山別邸（'37）・清彦邸（'36）・熱海別邸（'40）・那須山荘（'28）も収録

写真右下の屋根は、カメラを置いた 5 百坪の主たる酒造蔵（仕込庫など）に他ならず、詩百篇を示唆する。
吉田竣工写真集に家業や人が写るのは山田のみ。詩百篇を含めた山田家に吉田は敬意を表した。

表紙 『白立山房*』付酒造部作業場 昭和 4 (1929) 年 6 月上瀬 (上旬)

クジャクの絵 Artistic Photo Album の文字 *洋館の別名

1 枚目 通用門

新町通に面す 「詩百篇」看板 加賀藩らしく、阿吽の逆さ狛犬・対が屋根に鎮座 開き戸 (写真 5)

2 枚目 ゲート・渡り廊下

東から撮影 ゲートを通し、洋館と土蔵を繋ぐ渡り廊下 (写真 6) 敷石 白い開き戸

3 枚目 ゲートと洋館

東から撮影 南面八角窓 光るバラのゲートは、朽木邸（非現存、吉田設計）と類似 土蔵戸前

4 枚目 洋館外観

東から撮影 北面八角窓 『吉田鉄郎建築作品集』（1968 年）に使用（写真 4）

5 枚目 洋館外観・渡り廊下

西から撮影 南面八角窓 江戸文政期以前の屋敷から当時の大庭園を介し洋館を臨む（写真 7）

6 枚目 酒造店舗に繋がる廊下

西から撮影 詩百篇酒造の店舗から洋館に入る 北の大庭園を鑑賞する門窓 東からの光

7 枚目 1 階 寝室

西から撮影 東からの光が飾り戸棚・対の間を通る 黄色の八角煙草立・藍色の椅子 (写真 9-1)・机

8 枚目 1 階 寝室

南から撮影 ベッドを確認 北から差し込む光 レコードラック・ステレオ・机

9 枚目 1 階 客室

南東から撮影 吉田の客室（後改修）ストーブ、書棚 (美術全集・ピンクの壁紙・緑のカーテン)、衝立

10 枚目 1 階 客室

北東から撮影 統一意匠（ギザ緑）のネストテーブル・丸テーブル、タッセル

11 枚目 階段室 1 階部分

北から撮影 極めてゆるやかな階段、光る白壁、吉田の兄 五島健三の絵画「谷間の夕」 (写真 8-1)

12 枚目 階段室 2 階部分

北から撮影 西面八角窓からの光が階段手摺の支柱を通し入る

13 枚目 2 階 画室

東から撮影 小泉繁の絵画「果物とウイスキー」は、今は 1 階寝室にある 北からの眩しい光

14 枚目 2 階 八畳間

南から撮影 南面 光る床の間

15 枚目 1 階 洗面所・便所

階段から撮影 (南上から撮影)、左右逆 役物タイルを多く使用 北からの美しい光

16 枚目 洗米作業

酒造部作業場 作業をする人々 作業員は全員詩百篇の前掛け (写真 17)

17 枚目 醪搾入作業

酒造部作業場 作業をする人々 作業員は全員詩百篇の前掛け

18 枚目 醪圧搾作業

酒造部作業場 作業をする人々 作業員は全員詩百篇の前掛け

裏表紙 デザインなし

下線は現存

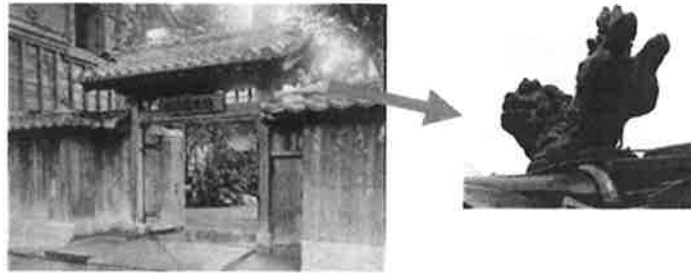


写真5 竣工写真集 1 枚目 屋根の上に阿吽の逆立ち狛犬(右拡大図は、現状)が置かれた

光溢れる竣工写真集に沿ったツアーを行い、洋館の要点、特に旧東京中央郵便局との関連を述べる。

・前面（ファサード）

外壁と窓枠の黒白の対照はモダンで印象深い。大きな窓は、光の恋しい福野の住宅らしい。底は長く、総じて雪国の造りである。これらは日本の公共建築の規範、旧東京中央郵便局のモチーフとなった。吉田は出身地福野の住宅の考え方を全国に広めた。

南半分の南京張り下見の外壁は昭和 4 (1929) 年竣工当時のままである。普通この古さの住宅はサッシ・トタン・鉄骨で補強するが、洋館に補強材はない。釘・眼鏡石も竣工写真と原図で照会し、原型堅持を証明できる。富山県の地震の少なさ (2024 年 1 月の能登半島地震の福野への影響は軽微)、木造建築に適する北陸の湿度。吉田は地域の気象データに基づき最善の住宅を設計する (注 12)。当時の最先



写真6 竣工写真集 2 枚目
洋館と土蔵を繋ぐ渡り廊下



写真7 竣工写真集 5 枚目
洋館・渡り廊下を臨む

端技術、コンクリート基礎も通風を確保した。洋館床のフローリングが今残るのは、吉田の設計のお陰である。加えて 2 cm 近い分厚い下見の板。山田家も吉田指示から 10 年に一度外壁を塗装し維持に努めた。山田家と吉田は協力し洋館を残した。

・土蔵との位置関係: 渡り廊下

土蔵との直結は洋館の特徴である。役割を担う渡り廊下には竣工写真が 2 枚当たる (2 枚目・5 枚目)。

土蔵は母屋と遠く置かれるものである (2-4-2.; 4-2-1.; 4-3-2.)。類焼を防ぐためである。山田家住宅では土蔵と洋館は屋根付きの渡り廊下を通し繋がる。土蔵中の芸術家山田正廣の絵画はほぼ同じ建屋内で洋館と往復する。郵便物運搬の為、東京駅の目の前にある (地下通路を通しエレベーターやコンベヤーを利用) 旧東京中央郵便局¹⁹と通ずる。吉田原図では洋館と土蔵戸前が書かれ位置関係が瞭然である。

¹⁹ 旧東京中央郵便局は昭和 2 (1927) 年起工。『工事画報』「東京中央郵便局新築工事概要」1932 年 12 月号 吉田鉄郎

土蔵戸前も、採光や下見など吉田の関与の可能性は高い。総じて、洋館・土蔵の一体は洋館に対する吉田の考えを示す(写真 6, 7)。なお、渡り廊下には、旧馬場家牛込邸(4-2-1.)で吉田愛用の網代を天井に、烏山別邸(3-9.)に典型的なテラゾーが入口足元に使われる。

洋館に台所や風呂など火元はなく、この連結という特徴は具現化した。暖房はどうしたか。吉田は洋館 1 階中央、客室と寝室の境にドイツ Junker & Ruh 社製の最新の鑄鉄ストーブを配置し客室を温め、煙突を寝室に巡らせ 1 階を暖めた。2 階の床を通し 1 階の熱を洋館階上に伝え、階段室の吹き抜けを利用し暖気を対流させた。吉田の設計により洋館は暖かかった。後、ストーブを昭和 13(1938)年に撤去(年末、彫刻家松村外次郎と引き取りを協議)、カーテンの仕切りをガラス戸に変え、外の冷気を遮断し暖気を確保した。

・外周 八角窓

洋館には、北・西・南の三面に八角の窓がある。北・南面は昭和 4(1929)年当時はガラス窓で、後ガラリに変え風を通す。

八角は東洋の意匠で昭和初期に日本でよく使われた。吉田建築で外に面する八角は洋館以外にない。山田正年は衆議院議員として中国蘇州を訪問し(大正 7(1918)年)、留園の八角窓を見て、以降八角形を種々使った。八角形は気を撥ね除けるため、気の入る東側には置かず、他三方に配し、気を留める。洋館もこの考えを採用する。風水の守る洋館を人はパワースポットと呼ぶ。

さて、八角と言えば旧東京中央郵便局の柱を思い出す。緩やかな階段の部で改めて紹介する。

・洋館の入口へ

吉田は、日本人の今住む洋館を昭和 4(1929)年に提案した。明治大正の洋館は福野農学校巖浄閣(2-4-3.)のように靴を履いたまま入る。一方、洋館では靴を脱ぐ。日本人に馴染んだ生活や、湿気の多さを意識し、泥を避け衛生面を考慮した。

洋館のように、日本住宅に洋風を加味する考え方は文化住宅²⁰と呼ばれ、大正 12(1923)年の関東大震災後に流行った。文化住宅は現在建て替えの波に襲われほとんど残っておらず、まして洋館は吉田の建築であり稀有である。関東大震災は、旧東京中央郵便局の計画を変更し、洋館にも影響した。

・1 階寝室の壁面収納

1 階寝室には、西面全面に左右対称の壁面収納がある。取っ手付きの桐の箆筥が隙間なく収まる(写真 9-1)。吉田は旧馬場家牛込邸(4-2-1.)などに壁面収納を使ったが、洋館は幅 3.3 m と大きい。1 階は寝室の他、客室も竣工時は左右対称で、吉田建築の特徴を示す。

入口足元の巾木(はばき)は高く、部屋に入る際のアクセントである。天井の濃茶色の廻り縁(ぶち)は室内を引き締める。寝室の廻り縁・水平でない工夫した巾木(埃を留めない。旧東京中央郵便局の如く視覚効果により遠近感を持たせ空間を広く見せた、とも)・天井のアカササの通気口・取手の金具・壁面収納は各部屋共通に使われ、洋館全体を強く統一する。

どの部屋も入口は 2 m 弱と高い。海外からの客人を念頭に置いた。窓に掛かるバンガロー風の幌や白いバルコニーと共に、世界に開かれた時代を思い起こす。

・緩やかな階段

吉田は階段室を最重視した。吉田原図に本人の書き込みは最も多い(注 11)。

階段室は天井まで吹き抜け、白壁と併せ旧東京中央郵便局と通じる、開放感ある広がりを持提示する。

²⁰ 『もういちど読む山川日本近代史』2013 年 4 月 鳥海靖 山川出版社

圧巻である。階段の傾斜は 24.5 度と緩やかで、手摺は子供用と言って良い程低い。踏板はゆったりとし吉田建築には珍しく滑り止めもある。踊り場も畳一枚以上。下半身の不自由な山田正廣 20 歳、這いながらの昇り降りを配慮した。付近の柱の角は落とし、当たっても痛くない（移動が円滑。旧東京中央郵便局の八角の柱と通底する）。当時最高のバリアフリーを追求した。類を見ない階段である。



(左)写真 8-1 竣工記念写真集
洋館階段室 踊り場まで



(右)写真 8-2 階段室の現状
踊り場から 2 階まで

3 m を越すケヤキの手摺は貴重である。階段側板の錫杖様の掘り込みも洋館を守る。

光。大窓を通った光が白漆喰の壁に導かれ差し込む。八角窓からの穏やかな夕日が、階段手摺の井波の轆轤（ろくろ）細工による手摺木（支柱）に当り飛び散りつつ加わる。階段は折り返し以降さらに緩やか。緩歩しながら、壁に原図通りリズムカルに掛かった（写真 8-2）、光の中に映える絵画を鑑賞する。階段を見上げよう。富山県初の文展画家、吉田の兄五島健三の鹿児島第一師範学校時代の油絵「谷間の夕」。踊り場に、洋館竣工の際、山田正廣に吉田が贈ったユーモラスな自作の塑像も竣工写真に伺える（写真 8-1）。階段は五島家の場でもある。

原図に比べ、現状は一層やさしい。手摺より上の親柱（手摺を支える太い柱）も除かれた。正廣の結核の進行に合わせた。

階段室は吉田の意図を物語る。モダニズムの階段室は洋館の心臓である。

・2 階画室と保存家具

「画室」なる目的が明白な部屋を吉田が原図に表し、そのまま残る。幸運である。画室の窓は北面のみで、柔らかな北からの光が絵画鑑賞に適し作品も痛めない。繊維産業の砺波地方出身、幼い頃から絵画に馴染んだ吉田は光に精通した。

洋館竣工後山田正廣の病状は深刻化。絵を描けなくなり、画室は収納庫に化した。他部屋の机・レコードラックは今画室にある。客室にあった書棚一対（横幅各 1.8 m。吉田の家具の中で最も精緻でかつ大きい）も画室に登り注目され、吉田研究の二つの新発見を示唆する。まず備え付けの家具は移動する。建築が消滅しても家具は残したい吉田の意図だろう。洋館内の他の家具も外せそうだ。実際 1 階寝室東面の飾り戸棚は外した跡が伺える。次は、書棚のピンク色の壁紙と、緑色のシルクのカーテンの対比である。竣工写真集（モノクロ）では色は判らない。洋館で、実地で色を認識する。洋館寝室の家具も黄色（八角煙草立）と藍色（椅子）が対話する。

吉田建築は旧東京中央郵便局の如く清らか。一方色彩は感じにくい。洋館では、山田家の意向か画家吉田の趣向か、色彩を味わえる。

洋館内には、吉田の図案と見られるギザ緑の家具：ネストテーブル・丸テーブル・色鮮やかな衝立もある。吉田は細かく指示し家具にこだわる。洋館の豊富な家具により、吉田家具の解明は進むだろう。



(左)写真 9-1 竣工写真集 7 枚目 寝室: 飾り戸棚・椅子・八角煙草立

(上)写真 9-2 黄色の八角煙草立と藍色の椅子

・和洋折衷

吉田建築は和洋折衷で知られる。洋館では、画室に付属する準備室が典型である。洋室の中に和風の違い棚を持ち、洋風の筆返しも付く。原図の違い棚には、明治 41 (1908) 年、正年が義弟松村謙三 (同 45 (1912) 年から福光郵便局長) と誘い合って購買した法隆寺百万塔を飾り、和洋は幾重の入れ子になった (吉田は山田家を熟知)。二階画室入口の洋のアーチと、八畳間火灯口の和のアーチが 90 度で邂逅するのも感銘深い。吉田は洋館の狭さをむしろ生かし、和洋の鮮やかな対比・協調を随所に置いた。

・2 階八畳間の位置づけ

日本の住宅。フローリング基本で椅子ベッドの生活の中、和室も欲しい。それは八畳間である。

八畳間は正統的和室の様式に則る。床の間は南面し、向かって左から入る。西面には長押 (なげし、壁面を囲む装飾) があり、腰張りが壁も住人の着物も守る。柱を生かす北陸らしい真壁造である。南面は山田正廣用に、バルコニーの手摺も腰張りも低い。

吉田は、日本建築の真壁の軸組を、通信建築の鉄筋コンクリートの柱・梁・壁に適用した。彼の日本間を洋館で鑑賞できる。

材料は多彩である。入口、栃の踏板一枚は木目もくっきりし高価である。一本絞り杉丸太の床柱も入手は困難。床框 (がまち、床の段差にある横材) の控えめな黒柿は漆黒品より価値は高く、対応する落とし掛け (床の間の小壁の下に取付ける化粧材) の栗材は鮮やかで珍しい。天井の、今入手不能 (犯罪) な屋久杉。関東大震災後、経費節減に迫られた旧東京中央郵便局や第二次大戦前で節約を課された旧大阪中央郵便局と異なり、吉田は最上の材料を使い洋館で腕を振った。吉田が洋館の資料を大切に残した理由であろう。

天井の梁は床の間と垂直で、直接刺さぬよう緩衝地帯を設けた。洋館は、山田家内の先輩建築、江戸文化時代の座敷 2 部屋と合わせた。

八畳間の東側には三畳程の、当主山田正年のサンルームが加わる。中庭を臨み、酒造業の営み即ち米の入荷や酒の出荷を掌握した。洋館のもとの目的は清酒詩百篇の監督であったと腑に落ちる。

・その他 部材類

洋館には、最先端の材料も使われた。例えば、旧東京中央郵便局などで吉田の代名詞、タイルは、洋館では便所に敷き詰めた。今では生産量の少ない立体的な役物タイルを多用した。タイルの裏の DK ロゴはダントータイルで、この時期吉田の使ったメーカーの一端を示す。スイッチは GE マークのゼネラルエレクトリック製。電気器具には日本製より、高価であっても海外メーカーを吉田は信頼した。階段の照明は三路スイッチで、1 階からも 2 階からも操作できる。

洋館調査から、吉田の考え方のみでなく好んだ部材も判明する。

・小括

バリアフリー、絵画展示・移動など機能重視の吉田の考えは、洋館に顕れた。旧東京中央郵便局の設計・施工と同時代、吉田黄金期の建築である。吉田は山田家と密に協議し、山田家の事情を汲んだ。洋館と山田家の家業銘酒詩百篇は切り離せないと言った。山田家も最上の材料を提供し、吉田の建築を支えた。

安川慶一による改修2回は残念との見解はある。しかし、改修前後を比べ始めて吉田の意図は真に迫る（洋館は当初、1階のストーブのお陰で暖かったことなど）。

吉田らしい洋館は、Whoに合わせた類い稀な建築である。本稿で価値が伝われば幸いである。

2-4. 洋館以外の福野吉田建築群

2-4-1. 授眼蔵図書館（現存）[大正8(1919)年9月～]

吉田第一作。棟札には棟梁佐々木嘉平（四代、1889～1983）・顧問五島鉄郎とあり、吉田の学生時代、吉田家に入る前の建築である。宮大工佐々木の設計図に大正7(1918)年、五島（吉田）が手を加えた²¹。

建築の経緯を述べよう。明治38(1905)年西方寺住職佐々木慶成（明治18(1885)年～昭和34(1959)年）は仏書を多く買い入れ、一般図書を加えた簡易図書館を計画した。建築費9,000円・図書備品費4,000円は檀家負担、設備費3,000円は地方有志が受け持った。大正8(1919)年1月25日起工、8月20日竣工。9月1日の開会式には来賓として衆議院議員山田正年も出席した²²。8日より公開。

木造（鉄筋コンクリートとの記述もある）。竣工当時の閲覧室は22坪（72 m²、総坪数56坪（184 m²）。寄棟の大屋根の両側の鴟尾（しび、瓦葺屋根の大棟の両端の飾り）、反った屋根、入口のエンタシスの柱など仏教建築の要素を随所に取り入れた。大きなアーチ状の窓も名高い。内部はモルタル仕上げで、天井の鰻絵（こてえ）・シャンデリアが美しい。通気口4か所の意匠は洋館に似る。



写真 10 授眼蔵図書館のシャンデリアと窓

物語は多く、富山県の近代歴史遺産に選ばれた²³。平成3(1991)年に公立図書館の役割を終えた後、閉館し公開されず、文化財への動きもない²⁴。閉館を期し老朽化顕著な床は張り替え、天井・壁も塗り替えた。

西方寺には吉田による五島家の墓もある（昭和14(1939)年建立）。

²¹ 『授眼蔵仏教図書館概観』1927年 授眼蔵仏教図書館；『名工佐々木嘉平伝』1973年 齊藤五郎平；嘉平家は西方寺佐々木家の分家。四代嘉平は東本願寺山門造営工事(20～24才)の後、福野帰郷中に授眼蔵図書館を建築。1923年上京し日向別邸(表2)に関わる；『富山新聞』「地域書庫の役割まっとう 71年の歴史に幕 福野町の授眼蔵図書館」1991年1月16日；『北日本新聞』「郵政建築の生みの親吉田鉄郎の処女作福野町の授眼蔵図書館」1994年2月17日；『建設工業新聞』「甦れ!近代ロマン 西方寺授眼蔵図書館」1995年9月；『福野町寺社調査報告書』2000年12月 福野町教育委員会；『佐々木慶成遺稿と追悼録』1961年によると、佐々木慶成と五島寛平は同い年の親友

²² 『高岡新報』1919年9月2日夕刊

²³ 『富山県の近代和風建築』1994年3月 富山県教育委員会；『とやまの近代歴史遺産』2010年8月 富山県教育委員会

²⁴ “南砺市文化財保護審議委員会 福光「目玉監製壕」保存修理工事（案）について資料-1”2015年4月
https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/open_imgs/info/0000048285.pdf

福野西方寺住職佐々木慶成に関する昭和 16 (1941) 年の記述²⁵を示す。

人格識見高き 福野の名刹西方寺住職佐々木慶成師は京都本願寺派の文学寮から鹿児島造士館第七高等学校に入り、進んで東京帝国大学文科大学に入り哲学を研究し、卒業後大学院に於て印度哲学の蘊奥をきはめ一方の権威として斯界に頭角を顕し各方面の専門学校から講師として招聘されたが多数の門信徒、只一人の母堂の切なる願ひにより帰郷し西方寺住職としてひたすら布教に専念し傍ら日曜学校を興して郷土文化の向上に努めた。偶々本派本願寺に於て現法主彰如上人の教育主任の適材を物色中、人格識量明智の三拍子を具備した派内稀有の名僧として、慶成師に白羽の矢が立ちその大役を見事に果した。円満福德まさに一代の有知識といへる名僧である。

2-4-2. 五島家離れ (曳家保存) [大正 12 (1923) 年 (改築落成)~]²⁶

五島家住宅は、旧東京中央郵便局設計に取り組む頃の吉田建築で、旧福野郵便局舎と離れで構成。局舎 2 階は局長室兼応接室で一面に五島六代寛平の本が並び、弟五島健三のスケッチも掛かった。昭和 22 (1947) 年 1 月、同室を類焼する被害を受けた。同 37 (1962) 年 5 月 14 日、福野郵便局は苗島に移転、旧局舎は住友生命が使用。五島家も同 41 (1966) 年 12 月に横浜に転居した (五島家は 40 年強住居)。1980 年頃旧局舎は取り壊され、一部は福野上町公民館に使われた²⁷。



写真 11 五島家離れ

後、東に曳かれた離れは純和風木造 2 階建。円窓 (洋館にもあった) から当初庭を鑑賞したであろう。1 階、2 階とも座敷八畳・六畳の 2 部屋で、床の間のある 2 座敷は床刺である。雪国を配慮し 2 階は天井が高く、欄間に明り取りを設け、通常天窗の部分窓とし²⁸、室内は明るい。大開口部を持つ旧東京中央郵便局と考え方は通じ、洋館と似る。白い窓枠とバルコニー、床の間の可動式金具も洋館と共通する。

平成 20 (2008) 年吉田図面発見。現在離れには家具など五島家の痕跡はない。建築当時とほぼ変わらないが、補強材は 2009 年前後に使用 (注 5)。旧局舎との関係や曳家状況の本格調査は要する。なお、現在の中庭は五島家の植栽を生かし造園した (土蔵は五島五代の頃)。

この離れは、令和 6 (2024) 年 5 月 1 日開始のクラウドファンディングの対象である (4-3-3.)。

福野郵便局竣工時の郵便局長、五島六代寛平 (明治 18 (1885) 年~昭和 47 (1972) 年) をまとめる²⁹。

五島六代 福野郵便局長 先代寛平 (雅号桜陰) の後を受け福野郵便局長 (明治 38 (1905) 年~昭和 29 (1954) 年)。富山県特定郵便局長会会長 (大正 14 (1925) 年~昭和 2 (1927) 年)、富山県西特定郵便局長会顧問。福野農学校英語教師 町文化財保護審議委員長 両断趣味の会会長。趣味は絵描。高等教育まで弟健三 (洋画家)・弟 (吉田) 鉄郎の学費を負担。物理学者寺田寅彦と交流。福野郵便局のあった場所に (今は駐車場) 石碑 (昭和 45 (1970) 年福野町電話協力会 福野町監査委員 堀貞松 撰書) がある。

²⁵ 『越中人物誌』1941 年 越中人物誌刊行会

²⁶ 注 7; 『福野の史料』1978 年 齊藤五郎平; 『縁 清き流れに 一追悼 広瀬龍夫-』2012 年 10 月 いそべ桜蔭書屋 広瀬みき子/大村歌子

²⁷ 『福野町史 写真統計編』1991 年 福野町史編纂委員会; 「福野郵便局が移築され上町会館となった」の記述。昔の姿はなく部材使用か。

²⁸ 注 5; 『docomomo Japan 28 号』「吉田鉄郎の近代 モダニズムと伝統の架け橋」展 2020 年 頼原澄子

²⁹ 注 6; 注 8; 『近代史研究 第 18 号』「吉田鉄郎と五島寛平」1995 年 水間直二 富山近代史研究会;

『へるん倶楽部第 4 号』2006 年 6 月 伯父吉田鉄郎 広瀬龍夫 富山八雲会

2-4-3. 農学校農業博物館・報徳会館（非現存）[昭和 10（1935）年 9 月～同 59（1984）年]



写真 12-1 福野農学校 博物館・
報徳会館（写真右手）開会式



写真 12-2 博物館 2 階で行われた開会式

両館は、農学校創設 40 周年を記念し竣工。

「博物館は、5 間（9 m）、10 間（18 m）の 2 階建、報徳会館は 4 間（7.2 m）、5 間（9 m）の平屋建である。大体の体裁は、北ドイツ、スウェーデン、ノルウェー等北欧風（吉田が昭和 6～7 年に旅した国々）。博物館のため、窓を出来るだけ多くして明るくし、高く設け部屋上方より光を取り入れる。そして多い窓枠の並列に係らず、重苦しく堅い感じを参観者になるべく与えない様、苦心されている」³⁰。博物館の費用調達は、卒業生寄附金 4,657.00 円及び、山田正年の特別寄付 1,500.00 円などによる（総収入 10,041.56 円）。

両建築開会式の来賓山田正年の紹介中、報徳会館は正年の篤志寄贈と発表された。両工事は今堀佐七郎（1877～1959、藤井助之丞*の重要な弟子）が監督した。

昭和 59（1984）年初め、福野高等学校刷新のため両建築とも残念ながら取り壊された。平成 21（2009）年吉田図面発見。現南砺福野高等学校には、吉田が大正 2（1913）年第四高等学校時代に画いた農学校の鳥瞰図を展示。吉田は絵を好んだと思い出す。農学校も吉田の聖地である。



写真 13 福野農学校鳥瞰図

左上に中越鉄道（現 JR 城端線）の列車が走る。

* 藤井助之丞（1860～1934）：農学校巖浄閣（1903）や中越銀行本店（1908）に携わった名工。巖浄閣は洋館と幾つか共通点**を有する。吉田・山田正年の組んだ報徳会館も藤井一門が手掛けた。洋館も藤井一門施工の可能性は高い。

** ピンクと緑の使用（対比）・階段の意匠・通気口の金具・巖浄閣の高天原（入口の上部バルコニー）と、洋館バルコニーの装飾

³⁰ 『富山県立福野高等学校「八十年史」』1974 年 10 月 富山県立福野高等学校八十周年記念事業協賛会

3. 吉田・洋館の認知度向上

3-1. 本格調査開始まで

3-1-1. 洋館公開の努力〔昭和 13 (1938) 年～平成〕

洋館の認知度には二つの面がある。まず、吉田は福野いや富山県で知られなかった。次に洋館は私的空間である（住宅）。公共建築と異なり、普通他人に開放しない（文化財公開状況（4-2.））。



(左)写真 14 昭和 13 (1938) 年
遺作展覧会 洋館階段室



(中央)写真 15 昭和 13 年 遺作展覧会 洋館の前面



(右)写真 16 昭和 20 年頃
洋館で遊ぶ子供たち

しかし山田家は洋館を公開してきた。昭和 13 (1938) 年 山田正年は、山田家嗣子故正廣 (2-3-3.) の遺作展覧会を洋館全体で開催した。展覧会には 600 人超が入場、大半は佐々木慶成 (2-4-1.) 夫妻・御母堂ら福野の方々で³¹、他、吉崎福光・篠井城端郵便局長（注 51）等。306 名は向いの茶室で紅葉を散した茶菓薄氷を楽しんだ。新聞 5 紙、週刊誌『砺波新報』3 回、月刊誌『高志人』が報道し、階段室・洋館の前面・一階客室の写真が掲載された。洋館は正廣の命日に毎年公開と発表されたが、戦争により沙汰闇になった。

客を好んだ山田八代正年に倣い、戦後も昭和 55 (1980) 年山田九代秀徳の死去まで、酒蔵ツアー（年に数回小学生を招待）、普段のとき葬儀の機会に地域の方々は洋館を訪れた。同 48 (1973) 年 10 月 23 日の『越中百家』（富山新聞）は福野で唯一山田家を取り上げ、洋館南面の写真（同書唯一の近代建築）を載せた。



写真 17 竣工写真集 16 枚目
酒造部作業場 洗米作業



写真 18 『越中百家』に供出した写真
洋館と土蔵が繋がる

十代秀明は平成 6 (1994) 年から 5 年間福野に帰り、富山県立大学で教鞭を取った。以降、内外の大学・

³¹ 『近代史研究 第 47 号』「堀田楽器運動具店－金沢の福野山田家と伏木堀田家」2024 年 3 月 山田正彦 富山近代史研究会

醸造関係者を年数回洋館に招いた他「美術館のようだ」との感想。洋館調査を期待し 2010 年前後、吉田建築の専門家内田祥哉（東京大学名誉教授）・観音克平（郵政建築研究所, 3-3.）両氏の見学を受けた。しかし当時改修履歴は未解明で家の説明もなく、両先生は洋館を不可解に感じその後何も起こらなかった。

洋館は外から見づらかった。周りの建屋が遮った。昭和 38 (1963) 年まで、家業清酒詩百篇の建築群は洋館を囲んだ。詩百篇廃業後は、見通しの良い洋館東側（前面）に防犯を兼ね座敷を配し、洋館の印象的な前面は隠れた。

3-1-2. 洋館出現 [昭和初～平成 2 (2011) 年～令和元 (2019) 年]

・山田家と五島家の縁-2 (洋館竣工 (昭和 4 (1929) 年) 以降、2-3-3.)

両家の縁は続いた。山田正廣の遺作展 (3-1-1.) では、ゑく・六代寛平を含む五島家数人が洋館を訪問。山田十代秀明と寛平の三男正樹は遊び仲間であった。五島家は昭和 41 (1966) 年福野を去ったが、記念の『随想雑記』(1967 年、五島寛平) は山田家に残る。秋の福野菊まつりの会長も、

山田八代正年 → 五島寛平 → 山田九代秀徳 の順に受け継がれた。

広瀬はる (2-3-3.) の二男、広瀬龍夫氏 (吉田鉄郎の甥) は、秀明と旧制富山高等学校理科から親友で、山田十一代正彦の披露宴にも出席 (平成 2 (1990) 年)。富山通信病院長を務めた広瀬氏は吉田建築の保存を生涯の仕事とし、洋館を広く紹介した³²。

・課題は本格調査の数年前に氷解

洋館東側の座敷が古くなり、秀明は平成 23 (2011) 年夏洋館を含めた福野の山田建屋の取扱を、普段通り広瀬氏に相談した。吉田資料発見 (3-2-1.) の報告を受けていた同氏の願い「洋館は今後重要となる」で秀明は洋館維持を決め (筆者の了承を得ず)、同氏の勧めで東の座敷を翌年秋撤去。竣工時の洋館の威容が再現した。同氏の遺言であった。商業施設 KITTE 東京の開業 (旧東京中央郵便局、翌 3 月 21 日) 直前である³³。

洋館は認識された。公開 (3-1-1.) や『吉田鉄郎建築作品集』(注 3) の認知度に、福野街歩きツアーの感動も加わり (外からの洋館鑑賞)³⁴、ネットに写真が上がった。洋館の知名度は上ってきた。

3-2. 吉田の認知度向上

3-2-1. 全国の認知度向上 [平成元 (1989) 年～令和元 (2019) 年]

吉田建築に人々は馴染む。東京駅の左前に東京中央郵便局、大阪駅右前に大阪中央郵便局があった。

両中央郵便局建築が日本郵政の発足で危うくなり、設計者吉田が全国に知られるようになった。民営の問題・悪影響により吉田の名前が広まったのは皮肉である (民営は歴史建築の維持・活用母体の一つのはずである)。全国の吉田に関する平成からの動きを追う。

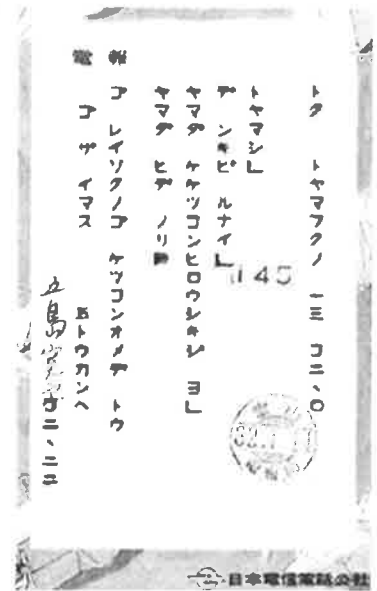


写真 19 五島寛平から祝電
山田九代秀徳へ 昭和 32 年

³² 富山八雲会サイト <https://seesaawiki.jp/w/tomiyaku/>; 広瀬氏は囲碁と絵が趣味; 観音克平氏 (3-1-1.) と親交。

³³ 『北日本新聞』「KITTE 丸の内 10 周年、福野出身の建築家・吉田鉄郎の傑作を再利用、隈研吾が内装デザイン」2023 年 8 月 20 日

³⁴ 『福野中部まちづくり協議会』第 4 回 歴史発見! 市の里ふくの街あるき (2014 年 7 月)

- ・(昭和 63 (1988) 年 3 月) 東京駅周辺地区総合整備基礎調査 国土庁・運輸省・建設省³⁵
- ・平成 6 (1994) 年 6 月 14 日 通信建築の足跡と展望 山田守・吉田鉄郎生誕 100 年記念展
通信総合博物館 (本資料から富山県建築士会が 11 月、吉田鉄郎展を開催 3-2-2.)
- ・平成 17 (2005) 年 7 月 26 日 社団法人日本建築学会会長 村上周三
東京中央郵便局庁舎・大阪中央郵便局庁舎保存要望書
- ・平成 18 (2006) 年 1 月 23 日 日本郵政株式会社発足 (社長 西川善文)
- ・平成 18 (2006) 年 5 月 26 日 「東京中央郵便局庁舎」および「大阪中央郵便局庁舎」の保存活用に関する
要望書 日本建築家協会
- ・平成 20 (2008) 年 7 月 10 日 『建設通信新聞』 「東京中郵継承議論 吉田鉄郎物語 (富山 TV) 上映」
- ・平成 20 (2008) 年 7 月 21 日 新建築家技術者集団東京支部幹事会
「東京中央郵便局庁舎の保存問題」に関する見解を発表
- ・平成 21 (2009) 年 2 月 28 日 『朝日新聞』 「一等地再開発 風雲急 東京中央郵便局
鳩山総務相「待った」重文級論議 郵政会社、戦略に狂いも」
- ・平成 21 (2009) 年 3 月 10 日 『朝日新聞』 「東京中央郵便局 保存部分拡大へ」
- ・平成 23 (2011) 年頃 吉田が保管し、弟子矢作英雄が受け継いだ原図 2,000 部を整理³⁶
(洋館原図 7 部を含む; 『吉田鉄郎資料』 2011 年 2 月 NTT ファシリテーズ)
- ・平成 24 (2012) 年 8 月 30 日 鳩山邦夫 文化財を保存し後世に伝える必要性に関する質問主意書
衆議院 質問第三九五号 (鳩山総務大臣は、少年の頃切手マニア)
- ・平成 25 (2013) 年 3 月 21 日 JP タワーKITTE 東京、東京中央郵便局内部を大幅に改修後、開業
- ・平成 26 (2014) 年 9 月 13 日 企画展「通信～郵政建築展—吉田鉄郎の作品に見るその源流と
発展—」郵政博物館
- ・平成 26 (2014) 年 9 月 18 日 旧馬場家牛込邸 (表 2; 2-3-3.; 4-2-1.) 重要文化財指定
- ・平成 28 (2016) 年 4 月 別府市公会堂 (表 2) リニューアルオープン
- ・平成 28 (2016) 年 10 月 29 日 「吉田鉄郎没後 60 周年記念展」日本大学³⁷理工学部お茶の水校舎
- ・(令和 2 (2020) 年 6 月 11 日) エースホテル京都開業 (旧京都中央電話局 (表 2))

民間企業となった日本郵政は、東京中央郵便局を取毀も含め検討した。老朽化し耐震性も心配であった。学会や市民の運動が政府を動かし、(一部) 保存となった。これが吉田に関する鳩山西川論争である。

³⁵ 東京中央郵便局と一体で計画された。<https://catalog.library.metro.tokyo.lg.jp/winj/opac/switch-detail.do?lang=ja&bibid=1101849884>

³⁶ 『日本建築学会計画系論文集』 「原図分析による吉田鉄郎の設計プロセスに関する研究」 2014 年 山崎徹川向正人

³⁷ 『桜建会報』 2016 年 12 月 大川三雄/堀田渡/観音克平/田所辰之助; 吉田は終戦後日本大学に奉職。

3-2-2. 富山県内における吉田を紹介する動き [平成元 (1989) 年～令和元 (2019) 年]

- ・平成 6 (1994) 年 11 月 23 日 「昭和モダニズム・吉田鉄郎建築展」～生誕百年記念 (高岡市美術館)
- ・平成 7 (1995) 年 3 月 『近代史研究 第 18 号』「吉田鉄郎と五島寛平」水間直二
(洋館を言及)
- ・平成 18 (2006) 年 1 月 26 日 『富山新聞』「富山教育の母 熱海の別邸「ふるさと」へ
- ・平成 20 (2008) 年 3 月 『福野おもてなしガイド』福野観光協会 市の里ボランティアガイド
- ・平成 20 (2008) 年 5 月 19 日 『平凡なるもの～建築家吉田鉄郎物語～』(富山テレビ製作)
- ・平成 21 (2009) 年 5 月 9 日 「吉田鉄郎とふるさと南砺 巖浄閣公開展」
- ・平成 23 (2011) 年 3 月 『歴史発見市の里ふくの街あるき』福野シティ開発; 洋館を紹介
- ・平成 24 (2012) 年 1 月 4 日 『北日本新聞』「旧馬場邸 (4-2-1.) 富山移転を上野教授ら働き掛け」
- ・平成 26 (2014) 年 9 月 18 日 『南砺の偉人』南砺市教育センター; 吉田鉄郎を紹介
- ・令和元 (2019) 年 10 月 27 日 福野家守舎³⁸による洋館公開イベント

県内の知名度は、全国の吉田建築保全と連動した。平成 13 (2001) 年設立、「小泉八雲と富山大学中央図書館「ヘルン文庫」の調査や普及、文化交流を学ぶ」富山八雲会³⁹も、馬場はる、加えて吉田鉄郎を重要テーマとした。会員大村歌子氏の『馬場はるとその周辺』は、洋館を含む吉田建築を 1 章分記述し⁴⁰、山田家は調査・資料提供・校正に協力した。この本は新聞に写真入りで紹介され、吉田は県内に定着した。

3-3. 「吉田鉄郎の近代 モダニズムと伝統の架け橋」展対応 [平成 30 (2018) 年～翌年]

吉田の名の高まりを踏まえ平成 31 (2019) 年、吉田鉄郎生誕 125 周年を記念した「吉田鉄郎の近代 モダニズムと伝統の架け橋」展は国立近現代建築資料館で開催された (吉田の卒論「我国将来の住宅」100 周年)。準備段階から洋館調査、認知度向上は加速する。

平成 30 (2018) 年 11 月 23 日から 3 日間、調査団が富山県の吉田建築を巡る計画となった。最終日に洋館を、との打診があり (1 か月前会ったばかりの富山八雲会の仲介)、最終的に文化庁の正式要請により山田家は視察を受けた。調査団は、田所辰之助 (日本大学教授); 観音克平 (郵政建築研究所、2 回目の洋館 3-1-1.); 山崎徹 (豊岡クラフト); 川向正人 (近現代建築資料館・東京理科大学名誉教授); 額原澄子 (近現代建築資料館・千葉大学准教授); 高木愛子 (近現代建築資料館); 今井恵子 (同、敬称略) であった (注 28)⁴¹。

荘厳な洋館。「病気がちの子息を気遣う」(注 31) 特徴的な内装、保存状態の良さ、山田家の物語、竣工写

³⁸ 地元有志団体、2017 年 7 月頃から活動開始。代表北川智之氏。2018 年 8 月設立の (一社) 福野アソシエイツ (代表理事北川智之氏) も並立し、福野で数か所空き家を所有・運営。

³⁹ 『富山八雲会ニューズレター第 23 号』2020 年 3 月大村歌子/木下晶; “大村歌子さんを (翁久允賞に) 推薦する” 2022 年 3 月 富山八雲会事務局長 牧野弥一 <https://okinakyuin.org/wp-content/uploads/2022/06/bf234a2499efb7421e3b4c76d8d1ba7f.pdf>; 『富山教育』2 月号「現代人の忘れ物語り伝えたい富山の芸術文化⑤ 伝統を近代に繋げた偉大な建築家 吉田鉄郎」2023 年 2 月木下晶

⁴⁰ 馬場家は住宅数邸の設計を吉田に依頼 (娘婿馬瀬金太郎邸含む。馬瀬金太郎の父清九郎は富山柳町郵便局長。山田家は 3 建築を依頼)。

⁴¹ 『富山八雲会ニューズレター 第 22 号』2019 年 2 月「建築家・吉田鉄郎について」大村歌子;

馬場家・富山八雲会 (注 39)・「平凡なるもの」の大江亜希子ディレクター (3-2.)・広瀬龍夫氏 (3-1-2.) の御子息も別途参加し、混乱。

真集⁴²の評価は高く、山田家は洋館に吉田原図の存在を把握した。しかし、洋館の多い見どころには2時間はとても足りない。興奮冷めやらぬ中、調査団は洋館を後にした。

洋館の価値と保存状態の評価を含む報告書の入手を、山田家は視察の条件としていたが、報告は来なかった。ただ、視察前夜の調査団との晚餐で「吉田建築ではしばしば山田正年の存在を聞く」と聞き、視察団から吉田原図コピーを10部入手した。上記展覧会は「山田家住宅増築」(洋館)を選抜し(1-1.)、原図2枚の複製さらに竣工写真集のほぼ全体をページ送り機能で展示した。『図版』も6ページにわたり洋館・山田家を言及。展覧会開会式に山田家も出席した。

3-4. 調査・認知度向上開始 [平成31(2019)年～令和3(2021)年]

山田家は平成31(2019)年南砺市の「空家相談口」に連絡、地元の福野家守舎(注38)の助けも借り、7月の南砺市文化財保護審議委員長・翌年末の市長視察に漕ぎつけた。後、市文化財保護審議委員会と接触し調査を依頼。土蔵や酒蔵も残る山田家住宅調査には人手が要り、金沢職人大学校の修復専攻科7期生の富山県建築士4名の方の調査となった⁴³。コロナ下の令和2~3(2020~2021)年、緊急事態宣言を縫い京都から月一度福野に赴き山田家は対応。吉田の洋館建築の意図や安川の改修経緯はかなり解明され、200ページ近い『山田家洋館調査報告書』は南砺市に寄贈し、調査の指導者、豊城浩行文化財監査官と木村勉長岡造形大学名誉教授の以下の指導・助言を基に、洋館の本格調査の方針[whoを強く意識]は定まった。

- ・このレベルの建築がよく今まで残っていた。雑草などもう少し清掃し建築に相応しくしたらどうか。
- ・洋館は吉田を建築家として位置付ける。洋館は重要文化財旧馬場家牛込邸(4-2-1.)を支える。
- ・技法・意匠のみではなく、背景(山田家・福野の歴史[福野の中の山田家の位置付け])も大切。
- ・福野にとって山田家はどうあったのか、地元の人の誇りに思う仕掛け。
- ・敷地のすべての建築は、山田家の歴史に関係する。

本調査は2021年7月富山県建築士会の公式視察に結び付く。洋館は建築業界に更に認識されつつある。

3-5. リノベーションスクール@南砺 [令和2(2020)年]

洋館調査進行中の令和2(2020)年11月28・29日、南砺市主催の「リノベーションスクール@南砺」にも山田家は応じた。洋館の用途を検討する。北川氏(福野家守舎)は「名建築に泊まれる宿」のコンセプトを最終日に披露し、また市長は、協力した山田家に感謝状を贈り、「議会も2回取り上げ、注力せざるを得ない」「(洋館は)とにかく凄いんです」とコメントした。山田家の洋館保持はあと10年、と表明する機会もあった。今後福野家守舎の活動として洋館に取り組む旨、文書で残った⁴⁴。

⁴² 2019年9月調査団は、もう一冊(原本は山田家所蔵、2-3-3.)の竣工写真集(熨斗付)を、吉田が大事に所蔵していた資料中に発見。

⁴³ 『金沢職人大学校だより』No. 02. 2020年10月。土蔵や倉庫の調査には届かなかった。

⁴⁴ 『北日本新聞』2020年11月29日「福野まちづくり具体案 リノベーションスクール公開プレゼン」;

『市民参加の宝箱』2021年3月 南砺市総合政策部政策推進課; リノベーションスクールは、76か所で開催。「全国でまちづくりの実践者として活躍される方々を講師として、それぞれの地域の特徴を生かしたにぎわいづくりを探求し、事業プランを立て事業化に向けて展開していく短期集中講座」。講座は有名であるが、後はフォローせず、結果の調査もない(リノベーションスクール側に確認)。

洋館は知られたものの、活用法の協力など、後の動きは伝わらない。ただ洋館は建築のみではない。家具・民俗関係品・美術品も価値を支える（2-3-3.）。広い知識を持つ組織の参画を望む。洋館は手強い。

3-6. 『越中福野の詩百篇』出版〔(令和元(2019)年)～同4(2022)年〕

洋館の認知度向上へ、文化財化と山田家・洋館の本の出版を計画していた。文化財登録はすんなり進まず（4-1.）、拙著『越中福野の詩百篇一発酵と歩んだ山田三代一』が先行した。これまでの活動と洋館を評価する方々から代わる代わる 8 回校正を受け、本の構成や見栄えにも数名の助言を頂いた。大村歌子氏（注 39）には「ごあいさつ」ページを賜り、親しみ易くなった。2 年かけた初稿は 1 年の修正期間を要し、令和 4（2022）年 6 月上梓。新聞や雑誌は 6 回取り上げ⁴⁵、700 冊が旅立った。



写真 20 『越中福野の詩百篇
一発酵と歩んだ山田三代一』

本の感想 100 通を頂き、本や記事に 10 回引用された。南砺市商工会や「これからの福野町を考える会 #1」（福野家守舎の活動）で出版講演も行った。吉田関係者・ファンへ浸透し、令和 5（2023）年に開始した洋館ツアーと相俟って、吉田に関する動きが耳に入るようになった（4.で述べる）。

3-7. 石川工業高等専門学校の調査〔令和 4（2022）年～〕

金沢職人大学校の調査（3-4.）を引継いで頂いた石川工業高等専門学校教授村田一也先生の本格調査は令和 4（2022）年開始。洋館・山田家に関し学術論文を 10 報発表された⁴⁶。更に幾つか計画中と聞く。現地調査可能な吉田建築はほぼなく、最近 20 年まとまった吉田建築の論文はない⁴⁷。いや、who を念頭に入れた吉田建築研究はかつてあっただろうか。村田先生は吉田研究の第一人者に近づく。

⁴⁵ 『北日本新聞』2022 年 6 月 21 日「山田家の歴史 一冊に 子孫の正彦さん書籍刊行」；『富山新聞』2022 年 6 月 22 日「山田邸を国文化財に 南砺市「市指定」から切り替え 山田家の歴史、本に」

⁴⁶ 『日本建築学会北陸支部研究報告集第 66 号』2023 年「吉田鉄郎設計の山田家住宅洋館について一南砺市福野の山田家住宅に関する研究（その 1）」村田一也・吉澤実紗・秦明日香；「竣工記念アルバムに見る山田家住宅洋館について一南砺市福野の山田家住宅に関する研究（その 2）」村田一也・吉澤実紗・秦明日香；「山田家住宅洋館について一南砺市福野の山田家住宅に関する研究（その 3）」吉澤実紗・村田一也・秦明日香；「山田家住宅蔵について一南砺市福野の山田家住宅に関する研究（その 4）」村田一也・秦明日香・吉澤実紗；「山田家住宅倉庫（旧詩百篇酒造場倉）について一南砺市福野の山田家住宅に関する研究（その 5）」村田一也・秦明日香・吉澤実紗；『同第 67 号』2024 年「山田家住宅洋館の家具について一南砺市福野の山田家住宅に関する研究（その 6）」村田一也・吉澤実紗・秦明日香；「山田家住宅の屋敷地について一南砺市福野の山田家住宅に関する研究（その 7）」吉澤実紗・村田一也・秦明日香；「山田家所蔵の図面（群）について一南砺市福野の山田家住宅に関する研究（その 8）」村田一也・吉澤実紗・秦明日香；『同第 68 号』2025 年「山田家住宅に見る安川慶一の仕事一南砺市福野の山田家住宅に関する研究（その 9）」村田一也・吉澤実紗・秦明日香；『富山市民芸館開館 60 周年記念特別展 富山と民芸運動』図録「山田家住宅に見る安川慶一の仕事」2025 年 7 月 村田一也 富山市民俗民芸村

⁴⁷ 『住宅建築』No. 359「特別記事 吉田鉄郎の馬場氏熱海別邸が語るもの」2005 年 2 月 橋本久道/山名善之/樋口清/内田祥哉/杉山経子

3-8. ツアー開催、報道 [令和 5 (2023) 年～]

令和 5 (2023) 年春、1 時間の洋館無料ツアーを開始。南砺市観光協会福野支部に協力を仰ぎ広く人々を招いた。秋の「近代化遺産全国一斉公開」(全国近代化遺産活用連絡協議会)とも共同した。年 30 回以上のツアー。非居住の文化財住宅で各段に多い (4-3-1.)。無料ツアーで冊子を配るのも珍しい。結果、同年・翌年何れも 200 名近くが洋館を楽しんだ。好評で申込は上昇傾向にある (カラー写真入りで数回報道)。

上記以外にも、家屋内での発見や文化財登録など、間断なく洋館は報道される。平成 31 (2019) 年から 5 年間、新聞雑誌⁴⁸の記事 (Web は未把握) は月 1 回ペースで、洋館 110 件・山田家 49 件となった。

テレビ放送は、令和元 (2019) 年秋富山テレビが 2 度、同 4 (2022) 年暮となみ衛星通信テレビが 15 分番組を 1 日 4 回 1 週間放送。国登録有形文化財答申 (4-1.) の同 5 (2023) 年 3 月 17~18 日には 4 件放送を確認した。FM となみ (ラジオ) は、同年 11 月 29 日に 20 分の放送、翌年 4 月 20 日 60 分の放送。これ程多く取り上げられた建築・家は恐らくない⁴⁹ (スポット番組は把握せず)。

3-9. 令和 6 (2024) 年の展開

吉田生誕 130 周年の令和 6 (2024) 年、「吉田鉄郎の近代」展から 5 年、種々の展開があった。

- ・ (令和 5 (2023) 年 3 月 17 日) (福野) 山田家住宅洋館 (洋館) 国登録有形文化財答申 (4-1.)
- ・ 令和 6 (2024) 年 1 月 16 日 旧馬場氏烏山別邸 (表 2, 光風亭) 東京都歴史的建造物に選定⁵⁰
- ・ 令和 6 (2024) 年 5 月 1 日 (福野) 五島家離れを含む住宅へのクラウドファンディング (4-3-3.)
- ・ 令和 6 (2024) 年 5 月 20 日 第 1 回「東京建築祭」キックオフイベント: 「旧東京中央郵便局」ツアー
- ・ 令和 6 (2024) 年 7 月 13 日 (石崎光瑤生誕 140 周年全国巡回展: 山田家を年表・『図版』で言及)
- ・ 令和 6 (2024) 年 7 月 31 日 JP タワーKITTE 大阪 (旧大阪中央郵便局の遺構を一部使用, 写真 21) 開業
- ・ 令和 6 (2024) 年 9 月 26 日 (福野) 巖浄閣企画展「世界で活躍「南砺の偉人」展」(山田家は主賓挨拶) 吉田鉄郎生誕 130 年記念 吉田設計の城端郵便局⁵¹の詳細写真 初公開
- ・ 令和 6 (2024) 年 9 月 29 日 (福野) 洋館への (公財) 日本郵趣協会@富山のオブショナルツアー (4-4-1.), 授眼蔵図書館 (2-4-1.), 初の公式公開 (この 20 年前後)

⁴⁸ 報道の方とは、紹介・各種イベントごとに担当に直接連絡し関係を作り、継続。新事実を伝えるようにする。良い記事になってお互いに成果となる。取材には準備する。記事に限らず、依頼の調査・校正は全速で行う。次の機会に結び付く。

⁴⁹ 洋館プロモーション戦略として、商標「詩百篇」を取得する動きが福野にある。

山田家には 100 点以上詩百篇酒造アイテム (手ぬぐい、鉛筆、マッチ、酒瓶等) がある (写真 3)。酒造の文献、識者の手紙も多い。

⁵⁰ 2023 年 3 月、第一生命保険(株)、丸紅都市開発(株)、相互住宅(株)、NTT 都市開発(株) (NTT は政府も一定株数を保有)、野村不動産(株) により、光風亭を含む "SETAGAYA Qs-GARDEN (世田谷キューズガーデン)" がまちびらきした。

⁵¹ 南砺市。1927 年設計、翌 10 月 1 日竣工。通信省外の建築。洋館と同時期の建築 (写真 22)。局長篠井多喜雄氏 (1889~、富山県特定郵便局長会会長 1937~1939、富山県西郵便局長会会長) は山田正年の従弟。1962 年取り壊し。

- ・令和 6 (2024) 年 10 月 4 日 (福野)「南砺市民大学ふるさと見聞シリーズ B」(4-4-2.), 約 20 名洋館訪問
- ・令和 6 (2024) 年 11 月 3 日 (福野) まちなか発見! ふくのまち歩き 2024 授眼蔵図書館等 計 11 か所を巡る
- ・令和 6 (2024) 年 11 月 6 日 京都モダン建築祭 エースホテル京都 (旧京都中央電話局, 表 2) を特別見学
- ・令和 6 (2024) 年 11 月 17 日 (福野) ふくのぶっくらぶ 授眼蔵図書館で開催
- ・令和 6 (2024) 年 12 月 7 日 (福野) 五島家離れ (2-4-2.) を含むシェアハウスオープン (4-3-3.)



(左)写真 21 JP タワーKITTE 大阪
吹抜北面は旧大阪中央郵便局

(右)写真 22 城端郵便局
篠井公太郎氏提供

3-10. 結論

洋館調査は発見を生み続ける。建築・郷土史・美術・民藝の専門家からさらに新知見を頂き、洋館に対する認知度は上がった。今後も令和 7 (2025) 年の富山市民芸館 (初代館長は洋館改修者の安川慶一) 開館 60 周年特別展 (7 月 26 日~10 月 28 日)、同 8 (2026) 年吉田鉄郎没後 70 周年と続く。

4. 洋館の維持活用

洋館の価値の確立、認知度向上活動に比べ活用は進まない*。ただ京都の山田家は保持を終える。権利は放棄する。時はない。

*南砺市議会本会議で洋館は 4 回質疑: 令和 2 (2020) 年 3 月 5 日・9 月 8 日、同 3 年 12 月 9 日、同 5 年 9 月 6 日

「建造物の所有者が公開を希望していないとか (???)、見学、活用等の連携については所有者の意向も伺いつつ、慎重に行うべきというふうに考えております。貴重で魅力ある建造物を後世に残していくためには、まずは地域住民を初めとした多くの人々がその場所を訪れ、利活用をしていく必要があると考えております。また、管理費等々をどう賄うのか、そういうことも含めて、しっかり計画をしていかなければ、なかなか前へ進まないという点もご理解をいただきたいと、このように思います。」(市長)

「山田邸の利活用を想定している地元団体の皆さん、また地域づくり協議会の皆さん、商工会等の意見、要望を参考にしつつ、民間団体での保存活用及び利活用の道筋を模索しまして、市としても、この支援を行っていくと、そういう方向を皆さんと協議をしたいなというふうに思います。」「市としても、個人等が所有する文化財の保存に向けた取組について、文化財の価値を市民が共有し、所有者や行政だけでなく、地域住民の皆さん方と一緒に、文化財活用についての取組を推進していきたいというふうに考えております。」

洋館維持の材料提供のため、洋館を含む山田家住宅の文化財化方針、文化財の費用感、洋館の保存状態、国登録有形文化財の公開に関する徳尾野・横山の総合論文、富山県内文化財住宅の維持活用、吉田住宅のクラウドファンディングを述べ、観光資源・洋館を考える。洋館もしくは山田家住宅のみでの収益は適切かの議論も提示する。

自治体は動かない。洋館を含む山田家住宅 4 件が文化財登録された今、洋館活用を検証する。

4-1. 洋館を含む山田家の有形文化財化と登録方針 [令和 3 (2021) 年～同 5 (2023) 年]

現在ある洋館周辺の建物は全て残したい⁵²。洋館を見守る福野の多くの人が思う。

南砺市は、洋館は市指定文化財の価値と判断、指定を目指した⁵³。しかし市は山田家と当時擦り合わせず、齟齬が 2 点出てきた。1 点目は、市の指定方針は吉田が直接関わった洋館のみ。洋館が文化財になると、異なる他の山田家住宅建築を後に別途文化財にするのは難しくなる。洋館と同時に文化財化しなければ、文化財でない他の建築は、吉田が認めた (2-3-3.) にかかわらず取り残される。地域の望む一体保存に適さない。

2 点目は市との契約である。指定に伴い市と山田家の結ぶ「文化財保護条例契約書」(全国一律) には、市長は捺印しない。市側の署名者は市教育委員長で、法人格もなく市の代表とは考えにくい。市指定となっても、4. に述べた通り市に引き取る姿勢はなく、民活を掲げた (自治体主体の、住宅を生かしたまちづくりは多いが⁵⁴)。文化財化と補助が直結しない中⁵⁵、契約は重い保全義務を山田家に課す (軽微な変更も市教育委員長の承諾必要)。

緩やかな方法、国登録有形文化財⁵⁶が浮上した。山田家住宅建築は全て築後 50 年以上で文化財にできる。令和 3 (2021) 年 11 月・翌 8 月、文化庁調査官が各 30 分視察した。以下コメント⁵⁷。

⁵² 山田家にとっては、“重い”土蔵単独で保持するのは最悪の選択である。土蔵廃棄には重機 1 週間で済むとの情報はあ

⁵³ 注 10; 2021 年、「吉田は建築家として文化的価値の高い建造物も残され、市内にある吉田設計の建物については推進ワーキングで検討することが南砺市文化芸術振興実施計画第 3 回策定委員会で議論された」が、後の報告はない。

⁵⁴ “小布施のまちづくり” <https://www.town.obuse.nagano.jp/town-development/docs/about.html/>自治体が主体的に関与、100 万人が小布施を訪問、“ガラスがきらめく滋賀・長浜のシンボル、元銀行を再生した「黒壁ガラス館」へ” <https://co-trip.jp/article/688961>、“歴史的建築物を活用した集客交流施設づくり (唐津市)” <https://machi.smrj.go.jp/machi/public/example/140106karatsu.html>

⁵⁵ 国指定文化財 (重要文化財) の巖浄閣の修復は国・県が費用負担。しかし外壁塗装は数年棚晒しである。国にも県にも予算がある。

⁵⁶ 「文化財登録制度」1996 年施行。50 年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを文化財登録し、届出制という緩やかな規制を通じ保存が図られ、地域の資産として活用が促される。既に 1 万件を超える。国登録有形文化財は、対象の建物のみ税金が半分開除される。ただし築 50 年たった住宅の税制上の価値はほぼない。一方土地の税金は軽減されない。

⁵⁷ 松村外次郎等色々な見方が出来、素晴らしいとの意見も。調査官はこの後富山市新庄町金岡邸の道具蔵の調査に向かった。

- ・洋館の昭和4(1929)年建築の古田現存部分は、ひとこと「素晴らしい」。
- ・安川慶一改修の理由は(山田家の)説明で明白に理解できる。安川の改修は山田家の流れの中にある。価値を下げない。
- ・文化財登録には、建造物の建築・改修時期の記録を要する。
- ・市指定・国登録有形文化財では、建築の背景(物語)も重要。

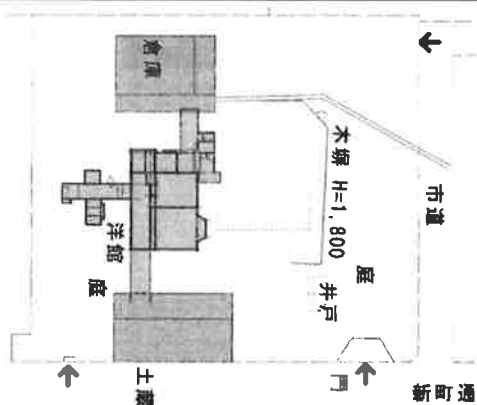


図2 令和6(2024)年現在の山田家住宅
洋館と付随する土蔵、倉庫、門及び堀

図2の補足写真
倉庫左奥の和釜台座
詩百篇酒造が、蒸米に使用



令和5(2023)年3月17日、山田家住宅洋館・山田家住宅蔵・山田家住宅倉庫・山田家住宅門及び堀、以上4件が国登録有形文化財に答申された⁵⁸。南砺市の国登録有形文化財は答申時28件で、うち1/7は福野の山田家敷地に集まる。吉田の地元富山県初の文化財で、吉田建築中7番目の文化財である(住宅では2番目)、他は重要文化財1件・市指定文化財1件・国登録有形文化財3件。洋館は肩を並べた。

洋館の文化財化は、平成31(2019)年の本格調査開始から4年と異例の速さ。空き家を考慮すると驚異的である。洋館の記録(山田家と洋館に関する拙著『越中福野の詩百篇』刊行(3-6.)を含む)・本格的調査・石川工業高等専門学校村田教授(3-7.)の書類作成協力・南砺市の洋館(吉田)重視は挙げられる。

洋館の吉田代表作としての認識は定まった。ただし、現在無人の洋館を維持活用する動きは見られない。

4-2. 文化財の費用感

4-2-1. 吉田の旧馬場家牛込邸調査[平成21(2009)年]

洋館修復・維持の費用感は、文化財想定『最高裁判所長官公邸の整備に関する有識者委員会報告』⁵⁹を参照する。最高裁長官公邸とは旧馬場家牛込邸(表2、東京都新宿区)。馬場家本邸として吉田が昭和2(1927)年設計、翌6月竣工。馬場家は財産税に対応し同22年に物納。20年弱住んだ。和洋折衷・一部書院造・一部数寄屋造。公邸981m²、土蔵69m²で、洋館のはぼ9倍。平成21(2009)年時点で築後80年を経過、木材の腐朽・虫害、床の歪みなど物理的に劣化した。同26(2014)年重要文化財指定。

現公邸の現状維持に必要な管理費(今後30年)の試算結果は次の通りと報告(平成21(2009)年)。

・初期費用となる修繕費		990,850,000円(耐震補強費130,560,000円を含む)
・以降30年の費用	補修費	900,730,000円
	管理費	257,126,000円
	光熱水量費	149,296,000円

洋館の面積を1/10と見ると、1億円相当となる。補修を妥協しても洋館の管理は1,000万円単位であろう。住宅は手間である。ただ、広いコンクリートの公共建築より費用総額は遙かに少ない。

⁵⁸ 『月刊文化財6月号』『登録有形文化財(建造物)一覧(第105回)』2023年5月。村田教授が土蔵や倉庫の調査を終えていた。

⁵⁹ 『最高裁判所公邸の整備に関する有識者委員会報告』2009年6月 最高裁判所公邸の整備に関する有識者委員会

4-2-2. 洋館と周辺の保存状態と補修費用【令和3(2021)年～】

令和3(2021)年レーザー測定器では洋館に目立った傾きはない。木造建築は鉄筋より持つ。コンクリート基礎のお陰で、あと数十年は持ちそう(3-3.)。ただ現在、指摘すべき補修点は多い。

- ・土台・壁のクラック; 東門の歪み(令和6(2024)年元日の能登半島地震以前から存在)
- ・天井の雨漏り跡(能登半島地震以前から存在)
- ・出窓の漏水跡
- ・漏電対策(平成24(2012)年に一部実施、数万円)
- ・シロアリによる土台の被害(令和3(2021)年夏、約70万円の見積取得)[シロアリはもう去った]
- ・庭の雑草対策、植栽の剪定
- ・土蔵・倉庫の整理整頓(多岐にわたる品々。迂闊に捨てられない)
- ・ブロック塀の修復

利用には修復を要する。集客には耐震対応も重要。初期費用の総計はやはり1,000万円以上か。

ちなみに、10年に一度行う外壁塗装は足場建設を伴い、令和3(2021)年秋、350万円かかった。

4-3. 文化財の活用

4-3-1. 全国の文化財の活用【令和元(2019)年～】

徳尾野・横山の研究⁶⁰を紹介する。個人所有の国登録有形文化財*公開の指標となる。

*文化財保護法第4条2:「文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用努めなければならない」。

一方、登録有形文化財住宅は「国民的財産」である前に多くは私有財産である。「住宅」の公開・活用に対し所有者にとっての意義を明らかにするべきである。公開・活用には建築の保全を必要とするためである。

国登録有形文化財の住宅は所有者の好意で公開。一部のみ公開・活用対象となる。来訪者の共感が支えて、建築の修繕に繋がる。第三者の管理協力は望ましい。多くの文化財住宅は独自に公開・活用される。文化財間で連携が進めば、活用内容・空間の使用法及びノウハウを共有できる。黒字化例は少ないと見られる。

- ・国登録有形文化財(建造物)のうち「住宅」4,897件を抽出。移築集合を除外し、1,359事例。

居住住宅(居住)79%。

非居住住宅(非居住)21%。管理はほぼ所有者又は親族(非居住では賃借者・ボランティア)。

大規模修繕の理由は老朽化(70%)。

- ・公開・活用プロセス(経緯・理由・目的):

居住:所有者の保全意識を惹起(17%);建築保全の認知(17%)。運営は所有者と親族。

非居住:収益物件としての評価向上(17%);大学の支援による地域や専門家の支援・評価(13%);地域交流(13%)。

運営は支援団体・ボランティア各20%強。

- ・公開・活用への障害・課題:居住:建築(庭)の維持手入れ全般(28%);プライバシー保護(10%)。

非居住:修繕・改修・安全確保(40%);運営(20~26%);事業計画・企画・情報発信;人手・組織・資金(公開準備、掃除)。

居住・非居住とも利用者のモラル・防犯(12%)。解決は、NPO・ボランティア・パートの協力(20%・25%)・費用負担。

⁶⁰ 『日本建築学会技術報告集第25巻第60号』『個人所有の登録有形文化財住宅の公開・活用の意義と保全に向けた可能性に関する研究』2019年 徳尾野徹 横山俊祐;『同第26巻第62号』『個人所有の登録有形文化財住宅の開放型保全に関する研究』2020年 徳尾野徹 横山俊祐

- ・ **開催日数**: 居住では年 1~5 回 31%、通年 18%。非居住では通年が 35%。
来訪者数は、非居住では中央値 300 人/月；非居住では中央値 750 人/月（内山邸（4-3-2.）の実績と符合）。
- ・ **公開する場所**: 短期開催は主に「見学」目的で、コース限定によりプライバシー侵害を制御。
居住で 30%・非居住で 60%が「私的領域」まで来訪者が入場。通年公開では「博物館・資料館」「店舗・飲食店」が多い。
来訪者の目的は国登録有形文化財そのもので、「空間体験・鑑賞」が理由。
- ・ **使用目的**: 「博物館・資料館」「店舗・飲食店」「宿泊」など、建築が持つ空間構成が「活動」に対応すると共に、「文化財」を集客効果に繋げる。しかし収益に結び付き易い店舗・喫茶店・宿泊は 1~2 割に過ぎない。

4-3-2. 富山県内文化財住宅の活用 [昭和 52 (1977) 年~]

国登録有形文化財住宅の例として、富山市にある近代建築、内山邸・金岡邸・旧馬場氏住宅を挙げる。民俗品・美術品を有し山田家の事情と近く、また山田家と親戚で、連携候補となる。

- ・ **富山県民会館分館内山邸（内山邸）⁶¹**: 富山県所有（宮尾）、慶応 4 (1868) 年築。土地 11,163 m²；建築面積 延 1,485 m²。昭和 52 (1977) 年 富山県へ売却され、翌年公開。平成 10 (1998) 年 7 月国登録有形文化財。テレビドラマや映画のロケ地。内山家は富山藩の豪農・十村。内山二十代松世の二男は、東岩瀬郵便局長だった米田元吉郎家の養子となった。利用見学科は大人 200 円。開館以降、毎年 1 万人超来館、同 55 (1980) 年は 1.2 万人を超えた。
- ・ **富山県民会館分館金岡邸（金岡邸）⁶²**: 富山県所有（新庄）、明治初期の商家。土地 1,967 m²；建築面積 延 806 m²。昭和 55 (1980) 年富山県へ寄付、翌年公開。平成 10 (1998) 年 7 月・令和 5 (2023) 年 3 月 国登録有形文化財。テレビドラマや映画のロケ地。見学科大人 200 円。富山県・薬業協会が平成 30 (2018) 年より日本遺産へ申請中。金岡家は薬種商・実業家。
- ・ **旧馬場氏住宅⁶³**: 富山市所有（東岩瀬）。平成 26 (2014) 年富山市へ寄付。敷地面積 1,810 m²；建築面積 938 m²。平成 28 (2016) 年 6 月 国登録有形文化財、5 年後公開。見学科大人 100 円。映画のロケ地。クラフトビールを楽しめる土蔵 KOBO Brew Pub がある。隣の旧森家（重要文化財）と共通券（180 円）を発行。日本遺産に登録（北前船寄港地）。地区の舩田酒造も支援し観光を盛り上げる。床刺の一部屋がある。

・ **開館準備**: 内山邸は 1 年余にわたり内部を撮影しカラー写真集を出版⁶⁴。

金岡邸は内山邸の集客状況に鑑み、薬業史料館とした場合の県民の関心は高いと判断。（公財）富山県文化振興財団が県から委託を受け、寄付から 1 年かけ施設を整備した⁶⁵。絵葉書や風船などを揃える。

旧馬場氏住宅は富山市が約 3 年修繕・耐震工事（国庫支出金：8,600 万円；一般財源：9,100 万円）。自治体の元、専門的修復。馬場家について『馬場はるとその周辺』（注 5）刊行。



写真 23 金岡邸の絵葉書

渡辺俊明 墨彩画 ※

※絵画工房蓮笑庵（画家 渡辺俊明のアトリエ兼住居）から掲載許諾を得た。

⁶¹ 『県民会館分館「金岡邸」の開設について』1982 年；『内山邸パンフレット』

⁶² 注 61；『金岡邸パンフレット』

⁶³ https://www.city.toyama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/001/796/39kyuubabake.pdf；

“旧馬場家住宅” [https:// goodlucktoyama.com/article/scenery-of-toyama-article/](https://goodlucktoyama.com/article/scenery-of-toyama-article/)

202205-%E6%97%A7%E9%A6%AC%E5%A0%B4%E5%AE%B6%E4%BD%8F%E5%AE%85

⁶⁴ 『柳原草堂 富山県民会館内山分館』1982 年 9 月 内山弘正 新興出版社

⁶⁵ 県内には 1981 年時点で数か所、薬業史料館が既存

・収益性と集客力

内山邸（職員 6 名）・金岡邸の見学科 200 円・旧馬場家住宅の見学科 100 円は管理者の人件費に満たない。旧馬場氏住宅は、富山八雲会（3-2-2.）会員がボランティア対応する（富山県の「富山県文化財保存活用大綱」⁶⁶も文化財ボランティアの必要を再三述べる。しかし、民間団体の維持の場合、ボランティアの社会貢献の考え方は成り立つだろうか。民営と公的の考え方の違い（3-2-1.）はここでも現れる⁶⁷）。

全てやや遠い。内山邸：バス停住吉内山邸口から 600 m、金岡邸：富山地方鉄道東新庄駅から 210 m、旧馬場氏住宅：富山ライトレール東岩瀬駅から 300 m 離れる（洋館は駅から直線距離 150 m と近い）。

何れも、歴史ある住宅建築と家・地域との関連の情報はない。冊子の充実、さらに人（who）の息遣いを語る洋館は対照的である。



写真 24 馬場はる 披露宴出席の返信

4-3-3. 吉田住宅のクラウドファンディング⁶⁸

[令和 6（2024）年 5 月 1 日～]

令和 6（2024）年 5 月 1 日、五島家離れ（2-4-2., 梶井家離れ）を含む家屋に対するクラウドファンディング（CF）が始まった。「日本近代建築を牽引した吉田鉄郎 その故郷「福野」に残る建築を守り、まちに開かれたシェアハウスとして活用する」と題して。

- ① 吉田鉄郎建築である、梶井邸「離れ」を残す（取り壊さない）ため、建物を取得する費用
- ② 継続的に建築を守るために「母屋」で『家守』が居住をするための修繕費
- ③ 呉服店だった「母屋」の土間と居間の間の壁を取り外して地域の拠点（リビング）にする修繕費

空き家になり解体危機にあった、五島家離れの活用に関する CF である。5 月 1 日～6 月 28 日の目標金額は 360 万円で、住宅取得費の一部に使用。目標達成の後資金調達は続き、現在は 600 万円に上限が引き上げられた。福野には追加に応じる余力は少ない。

吉田設計の五島家離れは洋館の約半分の面積で、CF 対象の建屋全体の数分の 1 である。調達資金は主に五島家離れ以外に使用。五島家離れは、梶井家（呉服店；梶井与四郎氏は 3-1-1.の展覧会に入場、町会議員・梶井綿織物工場社長）が大切に維持したが、10 年人が住まず外壁塗装を含む修繕費（4-2.; 4-3-2.）は必要と見る。CF



図 3 福野の吉田建築配置図

⁶⁶ 『富山県文化財保存活用大綱』2021 年 3 月 富山県教育委員会

⁶⁷ 富山県の自治体保有の国登録有形文化財住宅は、斎賀家住宅（南砺市井波、ボランティア「やえもんやプロジェクト」が運営）・野村家住宅土蔵（南砺市城端）・大谷家住宅（小矢部市）

⁶⁸ “日本近代建築を牽引した吉田鉄郎 故郷「福野」の建築を守り活用する！”（一社）福野アソシエイツ <https://readyfor.jp/projects/fukuno/>

の収支発表はまだない。応じた一人として全容（支出実績）、さらに五島家離れの修繕費用詳細を発表可能が見守る。空き家となり解体の危機にあるのは洋館も同じであるが。

2024 年 12 月 7 日、五島家離れを含む住宅は、シェアハウス Tanakaji としてオープンした（大工事なし）。福野古田建築群は動き出した。

4-4. 観光資源としての洋館

近代建築巡りはブームである。吉田と並び通信建築で有名な山田守⁶⁹の東京の他、宝塚・村野藤吾⁷⁰、横浜・坂倉準三⁷¹、金沢・谷口吉郎⁷²、今治・丹下健三⁷³、岡山・前川國男⁷⁴、神戸・安藤忠雄⁷⁵（坂倉・丹下・前川・安藤は国立近代建築資料館が資料収蔵）。多くは自治体が公式主催し、文化財としての建築を掲げ、物語を語るガイドのもと、自治体のブランドを上げる。

近代建築家の中でも特に吉田鉄郎は知名度を誇る（通信・郵便ファンを含む、3-2-1.）。令和 6（2024）年も旧東京中央郵便局や旧京都中央電話局など吉田通信建築ツアーがあった（3-9.）。

福野には観光資源たる吉田建築が集まる。JR 福野駅から東 230 m に南砺福野高等学校巖浄閣、北 230 m に五島家離れ、北西 150 m に洋館、西 110 m に授眼蔵図書館があり人の面の流れを期待する。吉田作品群中央の洋館は流れの中心。洋館と授眼蔵図書館は 60 m と近い。JR 城端線各駅から徒歩圏内に良い観光地が少ない中⁷⁶、福野は城端線の再構築計画⁷⁷にとり優良コンテンツである。直近の大規模ツアーを述べる。

4-4-1. 全国郵趣大会 洋館ツアー [令和 6（2024）年 9 月 29 日]

「全国郵趣大会」（富山市）、及び巖浄閣企画展「世界で活躍「南砺の偉人」展 吉田鉄郎生誕 130 年記念」（南砺福野高等学校）が偶然、令和 6（2024）年 9 月開催となった。全国郵趣大会 in 富山⁷⁸の参加者にとり、郵政と関係が深い吉田建築ツアーは非常に有意義である。ツアー「郵政建築の父「吉田鉄郎」生誕の地を訪ねる」が企画され、山田家も計画に加わった。福野中部まちづくり協議会・福野ボランティアガイド・南砺市観光協会福野支部など福野の方々の力添えも得て、本ツアーは日本郵趣の会の公式ツアーとなった。

富山市から 20 km。定員以上、全国の郵趣会員 20 名が鉄道を乗継ぎ南砺市福野を訪れ、主目的の洋館、併

⁶⁹ 1894~1966, 門司郵便局電話課, 荻窪郵便局電話事務室を設計,

<https://accesspoint.jp/reports/%E5%B1%B1%E7%94%B0%E5%AE%88/>

⁷⁰ 1891~1984, (社) 宝塚まち遊び委員会 <http://www.machiasobi.net>

<https://www.machiasobi.net/20231015%20muranotour2023.html>

⁷¹ 1901~1969, 神奈川県立稀代資料館サイト

<https://www.moma.pref.kanagawa.jp/storage/public/HallNewsDetailno1249965009167h1k.html>

⁷² 1904~1979, 金沢市観光公式サイト [https://www.kanazawa-](https://www.kanazawa-kankouyukai.or.jp/modelCourse/detail_73.html)

[kankouyukai.or.jp/modelCourse/detail_73.html](https://www.kanazawa-kankouyukai.or.jp/modelCourse/detail_73.html)

⁷³ 1905~1986, しまなみ街道サイト <https://www.jb-honshi.co.jp/shimanami/travel/architecture/p01.html>

⁷⁴ 1913~2005, “岡山市内の前川國男作品を訪ねる” 岡山県公式観光情報 [https://okayama-](https://okayama-kanko.net/sightseeing/special/8383/)

[kanko.net/sightseeing/special/8383/](https://okayama-kanko.net/sightseeing/special/8383/)

⁷⁵ 1943~, 兵庫県公式観光サイト <https://www.hyogo-tourism.jp/review/138>

⁷⁶ “砺波市観光協会” <https://www.tonami-kankou.org/>;

“南砺市の観光情報サイト 旅々なんと”<https://www.tabi-nanto.jp/>

『南砺市民大学後期講座』「ふるさと見聞シリーズ B」2024 年 7 月 南砺市役所

⁷⁷ 『城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画の認定について』2024 年 2 月 8 日 国土交通大臣

⁷⁸ 日本郵趣協会の会員のみでも 6,000 名近い。

せて巖浄閣、そして本ツアーのため久々に公開された授眼蔵図書館を歩き巡った。

ツアーは好評で、帰りの電車の車中、御礼のメッセージが多く寄せられた。「洋館のロジカルな解説も興味深い、初めて知る話」の声も聞かれ、これまで掬い上げた洋館の説明・物語に対する評価は高く、参加者は十分満足した。新聞雑誌5誌も取り上げた⁷⁹。半年の調整・吉田を大切に作る地域の方々の努力である。

盛況裡に終わった本ツアーは、東京駅に対面する旧東京中央郵便局を設計した吉田の全国的人気を意味しよう。今後、東京駅の乗車者（1日平均40万人、JR東日本調査）や、旧大阪中央郵便局の一部を利用し開業したKITTE大阪の開業を念頭に、70万人の大阪駅乗降客に働きかける観光戦略も考え得る。

4-4-2. 南砺市民大学「ふるさと見聞シリーズB」[令和6(2024)年10月4日]

全国郵趣大会一週間後の10月4日(+11月1日)、南砺市民大学の折も、吉田建築は魅力であった。

南砺市民大学「ふるさと見聞シリーズB」は、南砺市の旧8町村（旧平村・旧上平村・旧利賀村・旧井口村・旧城端町・旧井波町・旧福野町・旧福光町）の名所旧跡を見学し「故郷なんとを再発見」をテーマに企画された。城端駅徒歩圏内の善徳寺（直線距離400m）と福野を除き、訪問先は公共交通特に鉄道から離れ、バス借切のツアーであった。参加費は2,300円、定員20名以上が申し込んだ。福野の主題は吉田・洋館。講師の、洋館（色調）の説明付きツアーの他、巖浄閣・授眼蔵図書館も訪れ豪華であった。参加者から「良かった」と評価は高く、洋館は「雪深い地での洋館、その地の特性を考え作っている」と感想を受けた。

「建築は面白くない」、吉田建築は色彩が乏しいとされた（丹下健三（注73）の〈衛生陶器〉評）。洋館で印象が変わるだろう。洋館には色がある。物語と絵画も吉田を彩る。観光資源福野の洋館である⁸⁰。

4-5. 結論 [令和11(2029)年]

住宅には利点がある。洋館のように、各部屋は多様で見所も多い。公共建築は立派だが見所は1~2か所に留まる。住宅の複雑さは観光に有利に働き、リピーターを呼ぶ。加えて、吉田が「平凡な建築をいっぱい建てました（注5）」と述べた如く、洋館と連携できる吉田建築は全国にある（表2）。

建築では、単体での収益に拘らずとも集客し地域を活性化し、そして地域の景観を維持すれば妥当、との考え方は有り得る。観光収入に留まらない吉田建築のブランド力を生かせれば、公共交通の堅持も果たせる。そもそも、ブランドや独自性を失えば地域存続の意義が薄れるのではないか。

福野の原景、清酒詩百篇（2-3-2.）。福野人の誇る、安居寺・恩光寺・神明社・開祖三右エ門・夜高祭・歳の大市・県立農学校・授眼蔵図書館と並ぶ。そして、詩百篇と洋館は不可分と吉田は認定した。福野風景、土蔵も併せ、ここ山田家住宅ほど親しまれた建築は少ない。多い報道は証である。

洋館は人を惹きつける。吉田の3要素、郵政・絵画・住宅を包括する。Whoを意識した調査により洋館の3要素の理解は深い。周りの建物も含めた、物語100年も洋館を彩る。洋館は吉田らしい、そして吉田にとり特別の建築である。吉田の認めた品々を見に、吉田の愛した鉄道で洋館を訪れてみてはどうか。

⁷⁹ 『北日本新聞』「吉田鉄郎の足跡たどる 福野出身の著名建築家 南砺で建物見物ツアー」2024年9月30日；『日刊建設新報』「建築家・吉田鉄郎 生誕130周年イベント 南砺市福野で開催 建築と郵便の関りに思い馳せる」同年10月1日；『郵趣11月号』「ミニリポート オプショナルツアー吉田鉄郎生誕130周年 成功裡に終了!」同年11月1日 板橋祐己；『富山県人11月号』「郵趣ツアーで吉田建築」同年11月；『通信文化新報』「郵政建築の父「吉田鉄郎」生誕の地を訪ねる」同年11月11日

⁸⁰ 山田家住宅土蔵や山田家住宅倉庫も生かせる（図2）。受付もしくは旧馬場家住宅のように店舗、南砺市初の民俗博物館等。

吉田単独建築を現在まで持ち続けたのは、山田家のみ⁸¹。吉田の親戚として大切に保存した。

山田家が洋館維持を決めてから 15 年 (3-1-2.)。関西からの山田家のボランティア維持は限界である*。吉田建築維持の責任を山田家はもう果たした。調査は終盤となり、10 近いまとめも残るだろう。既述の通り (3-5.)、2029 年ー近代建築の泰斗吉田生誕 135 周年・洋館 100 周年をもって山田家は決断する。福野の景観、吉田建築は今、自治体や地域にかかる⁸²。



写真 25 旧東京中央郵便局と東京駅の夜景 (現 JP タワーKITTE 東京)
[駅と郵便局は都市の顔である]

⁸¹ 注 1『図版』；別府市公会堂は別府市役所勤務の池田三比古氏が大半の図面を仕上げた。

⁸² 譲渡の際、国登録有形文化財は 3 割譲渡税が免除される。

※体力面 (草刈り・防虫・除雪。福野で倒れたことも)、気力面 (動きや先が見えない、地震の余波)、経済面 (旅費、伐採等維持費)

YUUBINSHI-KENKYU

THE BULLETIN OF POSTAL HISTORY SOCIETY OF JAPAN

No.58
October 2025

CONTENTS

Front Color Pages: Original Design for Commemorative Stamps issued in 1975 (1)

<ARTICLES>

Fujimoto Eisuke, 96 Mon Currency system in Edo-Period Arithmic Texts: A Supplement to
Reconsidering "Dragon Stamp 48 Mon" (3)

Okazaki Yuya, The Transmission and Collection of Disaster Information by Regular Couriers:
A Case Study of the Ansei-Tōnankai Earthquake (32)

Inoue Takuro, In Hakodate: Maejima Hisoka and his Related Persons (48)

Suzuki Takao, Tracing the Military Relief-Picture-Postcard's Genealogy (55)

Akazu Akio, Pseudo-Military Mail (69)

Katono Yoshihisa, Postal Services in "Malai" (Malaya) as Japanese Occupied Territories (76)

Yamada Masahiko, Centennial of the Western-Style Yamada Residence – a Modernism Work
designed by YOSHIDA Tetsuro, Its Value, Recognition, and Maintenance-Utilization (90)

Book Review (120)

<NOTES>

Hoshina Sadao, On the Original and Trial Designs for the Quasi-National Park Stamps (124)

Inoue Takuro, A Study on Early Postbox of Ubumi Post Office, Shizuoka (142)

Hirata Takashi, "Postcards featuring patterns from Stone Age artefacts"
designed by Ōno Nobutarō (147)

Suzuki Katsuhiko, Old Book Review(32) "Hibata Sekko Chronology" by Yokoyama Kaname (155)

Published
By
POSTAL HISTORY SOCIETY OF JAPAN